

令和4年第4回定例会

富良野市議会会議録

令和4年12月7日（水曜日）午前10時00分開議

◎議事日程（第2号）

日程第 1 市政に関する一般質問

- |       |   |
|-------|---|
| 渋谷正文君 | 1. シビックプライドを高めるために<br>2. コミュニティ・スクールの現状とあり方について                 |
| 本間敏行君 | 1. 除排雪業務について  |
| 宮田均君  | 1. JR根室線（富良野－新得間）について<br>2. 邪神ちゃんドロップキックX富良野編について<br>3. 新庁舎について |
| 佐藤秀靖君 | 1. 富良野市が取り組むべき環境政策の在り方について                                      |

◎出席議員（15名）

議長	18番	黒岩岳雄君	副議長	13番	今利一君
	1番	宮田均君		2番	渋谷正文君
	5番	大栗民江君		6番	関野常勝君
	7番	石上孝雄君			
	9番	小林裕幸君		10番	家入茂君
	11番	本間敏行君		12番	佐藤秀靖君
	14番	宇治則幸君		15番	日里雅至君
	16番	天日公子君		17番	後藤英知夫君

◎欠席議員（2名）

3番	大西三奈子君	4番	松下寿美枝君
----	--------	----	--------

◎説明員

市長	北猛俊君	副市長	稲葉武則君
総務部長	関澤博行君	スマートシティ戦略室長	西野成紀君
市民生活部長	山下俊明君	保健福祉部長	柿本敦史君
経済部長 兼ぶどう果樹研究所長	川上勝義君	建設水道部長	北川善人君

総務課長 入交 俊之 君  
企画振興課長 小笠原 竹伸 君  
教育委員会教育部長 亀 淵 雅彦 君

財政課長 藤野 秀光 君  
教育委員会教育長 近内 栄一 君

---

◎事務局出席職員

事務局長 井口 聡 君  
書記 向山 孝行 君

書記 大津 諭 君  
書記 鷺見 悠太 君

午前10時00分 開議  
(出席議員数15名)

## 開 議 宣 告

○議長（黒岩岳雄君） これより、本日の会議を開きます。

新型コロナウイルス感染防止のため、会議中のマスクの着用を許可いたします。

## 会議録署名議員の指名

○議長（黒岩岳雄君） 本日の会議録署名議員には、  
渋谷正文君  
天日公子君  
を御指名申し上げます。

## 発言の取消しの申出について

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、11月30日の討論における発言について、石上孝雄君から、会議規則第63条の規定により、お手元に御配付の発言取消し要旨のとおり、発言を取り消したいとの申出がございました。

お諮りいたします。

申出のとおり許可することに御異議ございませんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（黒岩岳雄君） 御異議なしと認めます。

よって、ただいまお諮りのとおり、許可することに決しました。

## 日程第1 市政に関する一般質問

○議長（黒岩岳雄君） 日程第1、市政に関する一般質問を行います。

質問の順序は、御配付のとおり、順次、行います。

質問は、5名の諸君により、8件の通告があります。

質問に当たっては、重複を避け、また、答弁に際しましても簡潔にされるよう御協力をお願い申し上げます。

それでは、ただいまより渋谷正文君の質問を行います。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） -登壇-

おはようございます。

新議場における最初の定例会での一般質問、トップバッターの登壇となります。

見る景色が変わると、ちょっと緊張しているところではございますけれども、市民の暮らしを支える富良野市の政策や制度をよりよいものとするために、精いっぱい努めてまいります。

さきの通告に従いまして、順次、質問いたします。

1件目のシビックプライドを高めるための1項目め、シビックプライドに関する認識と具体的な戦略についてお伺いします。

令和4年第2回富良野市議会定例会で、市長は、所信表明を行い、第6次富良野市総合計画の「輝く。つながり合う。ひとのWA!」の中で、住んでいる人が誇りを持ち、訪れる人が憧れを抱くまちづくりを進めていくため、シビックプライドを醸成し、富良野市を発信していくシティープロモーションの推進について触れられています。

一般的な解説によれば、シビックプライドとは、都市に対する市民の誇りのことを言いますが、シビックプライドという言葉が市民に浸透しているとは言いがたいと言えます。また、シビックプライドの醸成に関する施策を先行して打ち出している自治体もありますので、その事例からは、本市としてのシビックプライドの考えを、市民の理解を図る上で可視化する必要があると考えます。

ここで、三つの点を伺います。

1点目に、本市のシビックプライドに関する定義及び現状認識についてお知らせください。

2点目に、本市のシビックプライドの効果が高まることで得られることとは何か、お知らせください。

3点目ですが、今後は、市民周知の点から明文化の検討も必要になってくるのではないのでしょうか。本市のシビックプライドの醸成の向上における今後の具体的な戦略についてお伺いいたします。

2項目め、郷土愛につながる富良野でしかできない体験の推進についてお伺いします。

シビックプライドの醸成に有効な方法の一つとして、まちの魅力を発見、発信し、また、地域が抱えている課題や解決策について考える地域教育は有効と言われております。

先日、行われた市内9小学校の将来を担う子供たちによる子ども未来づくりフォーラムの発表は、郷土への理解と郷土への愛情を育み、将来、まちの担い手として成長する人材育成と社会性やリーダーシップを育むキャリア教育を目的としています。子供たちを主役に地域の大人ができることを考えたいと再認識する機会であり、私も毎年楽しみにしていますが、大人も、子供たちの考えに接することによって、社会的な役割を担い続けたいとする駆動力を得られたのではないのでしょうか。大変すばらしい発表成果でした。

そのほかにも多くの特色ある実践事例を本市は行ってきておりますが、今回の質問は、学びを通じて人々がつながるための社会の仕組みをいかにつくるかという視点から、二つの点を伺います。

1点目に、現状として、人口流出に歯止めがかけられ

ていないことになっております。子ども未来づくりフォーラムなど、キャリア教育や郷土愛につながる取組をどう評価しているのか、今後の課題や取組について伺います。

2点目に、ひとのWA!として、郷土愛は第6次総合計画の重点施策に掲げられているところではありますが、地域教育は、小・中学生のみならず、関係人口を含む幅広い年代の住民を対象に行っていく必要性があります。教育の視点から、幅広い年代の市民が自らアウトプットする力をつけていくための体系化が必要と考えますが、見解を伺います。

2件目は、コミュニティ・スクールの現状と在り方、地域との連携、協働による教育活動の充実のための支援についてお伺いいたします。

先の見えない激動の時代において、これからの社会を形成する子供たちが自らの人生を切り開いていく力を身につけるためには、学校教育として、社会に開かれた教育課程の実現に向けた学習指導要領の着実な実施や、GIGAスクール構想の推進等に取り組むことが求められています。また、いじめや不登校、児童虐待の増大、規範意識の低下、SNS等インターネット上の諸問題等、子供を取り巻く課題も一層複雑化、困難化、潜在化しており、学校はこれらの課題への対応も求められています。さらには、学校の様々な業務の精選や負担軽減など、学校における働き方改革も早急に対応しなくてはなりません。このように、学校を取り巻く課題は山積しており、かつ、複雑化、困難化を極めていく状況です。こうした課題に対応しつつ、これからの時代に対応した新しい学校教育を実現することが必要となってきます。

コミュニティ・スクールは、このような社会の要請に応える大変重要な取組の一つであり、学校を取り巻く課題について、地域と学校が共有し、互いにアイデアを出していけるような機能や体制を持つことが重要となってまいります。

ここで、次の4点を質問いたします。

1点目に、コミュニティ・スクールの現状認識と課題について、2点目に、1点目を踏まえて、解決に向けた取組についてどのように捉えているのか、3点目ですが、教育の一貫性を保つために、中学校進学を見据えての小学校のコミュニティ・スクールとの連携が行われることが望ましいと考えます。コミュニティ・スクールの小中連携の必要性について伺います。

4点目に、学校が教育活動を通じて地域課題の解決に関わることは、子供たちの社会参画を促すことにつながり、その結果として、子供たちが地域社会の一員としての自覚を持ち、地域への愛着やふるさと意識が醸成され、地域との関わりの中で自己有用感も育まれるなど、様々な効果が生まれるものと考えられます。

しかし、実際には、学校が地域課題の解決に関わることに對して消極的な姿勢にあるように感じると聞かれることがあります。地域や学校の実情に応じて、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進める上で、コーディネーターの配置と今後における取組についてお伺いします。

以上、第1回目の質問といたします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

おはようございます。

渋谷議員の御質問にお答えします。

1件目のシビックプライドを高めるための1点目、シビックプライドに関する認識と具体的な戦略についてであります。総合計画策定時のワークショップなどにおいて、本市には多くの魅力があることが改めて認識されており、シビックプライドは、地域の魅力や共創の取組によるまちづくりへの関わり、それらに起因する地域への愛着心など、地域に対して市民それぞれが抱えている市民の誇りであると認識しております。

次に、シビックプライドの効果が高まることで得られることについてであります。このシビックプライドの高まりによって、本市の魅力や資源を多くの市民に共感や再認識をいただき、地域に対する市民の自信や愛着の一層の向上を図り、ここに住み続けたい、ふるさととしての思いの醸成とともに、行政だけでなく、市民一人一人が地域の魅力を国内外に発信することで、行ってみたい、住んでみたいと感じてもらえる雰囲気づくりなど、シティープロモーションの取組との相乗効果を期待するものであります。

次に、シビックプライドの醸成に向けた今後の具体的な戦略についてであります。シビックプライドは、多くの皆さんに感じていただきたいことから、共創のまちづくりとともに、本市のワインをはじめとする富良野らしい事業の推進や富良野スキー場開設60周年記念特別イベントなどの各種イベントを通じて、地域資源、魅力の認知度をより高め、また、シティープロモーション戦略を構築、実践する中で、市内外への情報発信により、シビックプライドの醸成に努めてまいりたいと考えております。

○議長（黒岩岳雄君） 続けて、御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） -登壇-

おはようございます。

渋谷議員の御質問にお答えいたします。

2点目の郷土愛につながる富良野でしかできない体験の推進についての現状の評価についてであります。本市においては、地域の特性や資源を生かした特色ある教

育活動を進めるため、各学校では、ふるさとキャリア教育として、まちの将来を担う子供たちが、自分たちの暮らす地域を深く知り、郷土愛を育むことを目的に、森林学習プログラム、心に響く道徳教育、演劇を活用したコミュニケーション推進事業、地域でのボランティア活動など、成長段階に応じて実施しております。

また、子ども未来づくりフォーラムについては、地域課題の解決に向けて、自分たちができることや、まちづくりに対する自由な発想、意見を発表する機会となり、各関係者から高い評価を得ております。

これらの取組は、子供たちにおける郷土愛の育成、自己有用感、肯定感の醸成につながっていると考えております。

次に、幅広い年代の市民が自らアウトプットする力をつけていくための体系化についてであります。これまで、本市の社会教育においては、学びの成果を暮らしの質的向上や地域社会に生かしていくことができるよう、ライフステージに応じた学習環境や体験活動の充実に向けてまいりました。また、多様な市民が集まり、それぞれが関心のあるテーマについて学び合うことも効果的であることから、平成28年度から実施しているふるのまちづくり未来ラボ推進事業では、幅広い世代の市民が年齢や立場を超えて参加し、みんなでアイデアを出し合い、自ら体験活動を実践しており、互いの知識や知恵を貸し出しながら交流する中で、富良野が好き、富良野を大切にしたい、富良野に住んでよかったという心が育まれてきたと考えております。

今後においても、社会環境の変化が激しく、市民の価値観や生活形態の多様化が進んでいることから、分野やテーマごとに、より多くの市民が主体的に参加し、人づくり、つながりづくりが図られ、地域づくりへの意識が醸成される取組を進めてまいります。

2件目のコミュニティ・スクールの現状と在り方についての地域との連携、協働による教育活動の充実のための支援についての現状認識と課題についてであります。各コミュニティ・スクールに設置している学校運営協議会では、学校運営方針の承認や学校評価のほか、各種課題に関する意見交換、登下校の安全確認、学校サポート、学校行事への協力などの協議が進められております。

コミュニティ・スクールの課題といたしましては、学校を取り巻く環境が複雑化し、課題が多岐にわたる状況に加え、コロナ禍の影響で集まる機会が減少し、活動に制約が生じている状況や、地域に対する積極的な情報発信不足などが考えられます。

これらの解決に向けては、学校運営協議会が学校とより緊密に連携、協力し、多くの地域住民の参画により、地域全体で子供たちの学びや成長を育むことが、学校に対する信頼関係や関心の高まり、教職員の負担軽減につ

ながると考えておりますので、委員の資質の向上に向けた研修機会の充実や、他のコミュニティ・スクールとの交流などに引き続き取り組んでまいります。

次に、コミュニティ・スクールの小中連携の必要性についてであります。現在、中学校区単位においては、児童生徒の発達段階に応じた系統的な教育活動の充実を図るための情報共有や連携を図っておりますが、育てたい子供の姿を明確にし、共有することも重要であることから、関係協議会間のつながりを深める機会をつくるよう促してまいります。

次に、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進める上でのコーディネーターの必要性と今後の取組についてであります。コミュニティ・スクールが目指すものは地域とともにある学校づくりであり、地域学校協働活動が目指すものは学校を核とした地域づくりであります。これらを一体的に推進していくためには、地域と学校をつなぐコーディネーターの役割は大きいことから、地域学校協働活動推進員を学校運営協議会の構成員に含めているところでありますが、今後も、関係職員に加え、地域や学校に関わる幅広い知識や経験のあるPTA役員経験者や退職教職員などの人材の活用も検討してまいります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 再質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） それでは、順次、再質問させていただきたいと思っております。

まず、シビックプライドを高めるためにということで、シビックプライドに関する定義及び現状認識について伺いたしたところでございます。

印象といたしましては、とても分かりやすく伝えられていて、こうしたことが皆さんに多く伝わっていくことが期待されるなどというふうに思っており、正直、聞かせていただきました。

その中で、幾つか確認させていただきたいことがありますので、質問をさせていただきます。

まず、シビックプライドの定義なのですが、私たちは、実は、行事があるときに、式典でまず市歌を歌い、その次に市民憲章を朗唱します。市民憲章とシビックプライドとの違いといいたしめようか、あるいは、同じ部分もあるのかというふうに思っておりますが、この辺りは、実は、一番最初にシビックプライドとは何ぞやというようなことを考えるときの根幹になってくるかというふうに思っております。

市民憲章と同じような部分、または違うところ、こうしたところを明らかにする必要があるのかと私は思いますが、御意見をいただきたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

シビックプライドと市民憲章などの違いの部分というような御質問かと思えます。

市民憲章につきましては、市民の総意でまちの目指すべき姿を示したものであるというふうに考えております。それに比べまして、シビックプライドについては、個人の気持ちの中で、まちを大切にしたい、まちを応援したい、発信をしたいというような気持ちの表れの総意だという定義だというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） とても明確なお答えをいただいたと思っております。

私も、市民憲章というのは市民としての基本的な行動規範を定めたものであって、この趣旨を踏まえていくということが、まちづくりに向けた非常に大切な指標かというふうに思っております。

一方、シビックプライドについては、この市民憲章の意味合いというのをしっかりと踏まえていく上で、いろいろな形の個人が持つシビックプライドがあるのかというところでは、考え方は一致しているというふうに私は思っております。

ですから、市民憲章と相関性のあるものとしてシビックプライドを捉えるという考え方でよろしいかどうか、再度、お伺いします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 渋谷議員の再々質問にお答えいたします。

市民憲章につきましては、市民一人一人がまちづくりをするに当たって規範とするものであります。それをベースとして富良野市はまちづくりを進めておりますので、シビックプライドにつきましても、市民憲章との相関については当然あるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） では、少し切り口を変えまして、シビックプライドの定義については、いろいろな、愛着ですとか、郷土愛ですとか、共感ですとか、そうしたことがあると思うのですけれども、私は、こうしたことを踏まえて、いかに一緒に自分事として行動できるようなことにつながっていくかというところが、シビックプライドの効果といいましようか、そうしたもののなにかというふうに思っております。

なぜかという、現状認識のところにもつながるのですが、このシビックプライドの高まりというのをどう測定するかというふうに考えたときに、測定する数値というのを一々出すようなことはなかなか難しいことだというふうに思っております。

そうすると、このシビックプライドを生かして、どのような愛着を持って、市民がどのような表現をしていくかというところをまちとして示すことができることによって、それが実現できることがこのシビックプライドの高まりというふうには私は考えるところなのですが、こうした考えを聞いて、そうした考えはききとお持ちだというふうに思っておりますので、御意見をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

シビックプライドに対する現状認識ということだというふうに思いますが、シビックプライドは、一人一人の意識の問題ですので、定量的に測ることは難しいことだというふうに考えております。

ただ、いろいろな調査などで現れている部分でいきますと、第6次総合計画のときに行いました市民の意識調査におきましては、市の政策で、大変満足、どちらかといえば満足が約半数に上ったのがごみの分別、リサイクルでありました。現在のリサイクル率90%というものにつきましては、市民の地道な協力がなければ得られなかったというふうに考えておりますし、それが実現をしたと。市民一人一人が意識をしているのか、いないのかということがありますが、まちづくりに参加をいただいているということであるというふうに思いますが、それが市政に対する満足度として意識をされているということは、ほかのまちには見られない我がまち特有のシビックプライドの現れではないかというふうに考えております。

一面的な部分だけですけれども、以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） とてもいい御答弁をいただいたというふうに思っております。

聞いている方も非常に分かりやすく、私たちのまちの誇りといいましようか、これまで行ってきた実践例について触れられて、そして、これからも頑張っていくまいというふうな気持ちにさせるようなことだったというふうに思っております。

このことから、まちのために自ら関わっていかうとする気持ち、そして、地域を育てるために行動しようとする、この気持ちにさせるという後押しをする

ようなことが、行政側の、シビックプライドとしてのできることだと私は思っております。

いわゆるまちの人たち、あるいは個人の気持ちを尊重します、でも、政策的にこういうようなことをやっていきたいということは、当然、まちは示すかというふうに思っております。そこのところを市長の言葉で共創という言葉を使っていたいただきましたけれども、そうした思いを込めて、共に作り上げていくという姿勢については、大変すばらしい考え方であるというふうに思っております。こうしたところを踏まえて、その気にさせる後押しというのを行政側としては考えていけるのではないかとこのように思っております。シビックプライドを進める上で、そうした取組について後押しをするような、言葉で言うと、デザイン性という言葉になるかというふうに思いますけれども、まちをデザインする考え方についてお伺いいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） 渋谷議員の再質問にお答えさせていただきます。

シビックプライドにつながる、いわゆる市民の行動の後押しというところが主な御質問かというふうに思いますが、シビックプライドの捉え方というのは、それぞれ違いがあるといえますか、入り口が違うのではないかとこのように思っています。例えば、ごみの分別であれば、最初は大変だったと思います。それが4種から始まり、最終的には14種ということでした。その経過の中で、分別に取り組むことでの成果を市民の方々に伝え、一体的に取り組んだ、そのことが対外的にも認められて、シビックプライドというか、市民の方の誇りにつながっているという部分があるかと思えます。

もう一つは、富良野スキー場の関係ですけれども、いまはもう国際スキー場として有名なスキー場になっておりますけれども、当初、富良野スキー場の走りは、商工会の方々が、せっかく恵まれた環境にある富良野スキー場、これを自分たちのスキー場として売り出そうというところから、一本のリフトを設置して富良野スキー場の整備が始まっております。そうした市民の方の思い、議員も指摘されていきましたけれども、共創という、まちをどうやってつくっていくか、一体的に進めるための意識といえますか、そういったものが根底にあって、そして、そのことが富良野スキー場の整備に向かい、その整備をする中で行政も後押しをしたといえますか、お手伝いをさせていただいたということではないかというふうに思っております。

そういうふうに、いろいろなシビックプライドの入りの違いがあるということで御理解をいただいて、まずは、共創の部分でいえば、やはり、市民の方々の意思を

尊重して、そして、その意思がより高みに向かっていけるように、シビックプライドを醸成するというよりは、シティープロモーションとしての役割を行政が果たしていくということも、シティープロモーションとシビックプライドが連携して進めるという形になってこようなというふうに思っております。

行政の関わりとしてはそういうことかということで御理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） 市長の思いは大変伝わりました。

シビックプライドは、行政で管理するものではありません、民、個の思いというのをしっかり尊重して、共にまちを作り上げていくときのいろいろな個性といいたいでしょうか、エンジンにもなっていくものだというふうにお聞きしたところです。特に、市で管理するものではないというようなところを聞いて、私は安心したところです。

その中で、いま、どちらかという、内向きの、富良野に住んでいる方に対してのことだったのですけれども、市長はシティープロモーションの話をされて外向きのことについてお話しされたのですけれども、シティープロモーションに入ると通告とはまた違うところになるので、どうしてもシビックプライドのところでは話をしますが、今度は外向きのところのお話をすると、我がまちに対して、シビックプライドというものでは、こういう取組をしているから共感できるとか、愛着や郷土愛というものにはちょっと別なところにあるのかなど。我がまちがどういうことをやっているから、すごいこのまちに共感できるよね、行ってみたいとか、あるいは、住んでみたいとか、いろいろなものを購入してみたいなどという気持ちにさせることをきっとおっしゃられているのかというふうに思えます。

それが政策として実現するために、先ほど言っていたシティープロモーションという言葉につながるかと思いますが、まずは根っここの部分としては、外にいる方に対してのシビックプライドというのはそうしたまちの共感力にあるというふうには私は思っておりますし、また、その共感力をいかに外にアウトプットする、いいものだから買ってほしいとか、いい場所ですから行ってほしいというようなものにつなげていくかというところが、外にいる方へのシビックプライドというふうには私は思っているところです。いま、皆さん方にちょっとお話をさせていただきましたが、そういうようなところも含めて考えていただきたいと思いますというふうに思っております。

では、時間もありますので、次の質問に移ります。

シビックプライドを高めるために、郷土愛につながる

富良野でしかできない体験の推進についてということでもあります。

まず、お聞きしたいのですが、答弁の中でふるさとキャリア教育のことに触れておりますが、小中高一貫ふるさとキャリア教育というものをこれまでも実践されていて、それは北海道教育委員会の事業だったかというふうに思いますが、それを市の中で今後反映させていくというようなことは、数年前、お話しされていたかというふうに思います。

これについて、現在、どのような形で取り組まれているのか、お伺いいたします。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

教育委員会教育部長亀淵雅彦君。

**○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君）** 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

以前に北海道教育委員会の事業として取り組んだ小中高一貫ふるさとキャリア教育の関係が、その後、どのように続いているのかということだというふうに思います。

これにつきましては、その後におきましても小・中・高それぞれの学校と連携した中で小中高一貫富良野キャリア教育推進会議というのをつくりまして、その中でそれぞれの取組の部分を確認し合い、また、連携するところは連携するというところで情報共有をしているところでございます。

以上です。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

**○2番（渋谷正文君）** いま、答弁で情報の共有をしているということだったのですが、小中高一貫ふるさとキャリア教育は、いろいろな実践例に基づいて行われてきたというふうに認識しております。

いまの答弁からすると、1歩も2歩も何か後退しているような感じがしてしまうのですが、それでは駄目だというふうに私は思っています。本当にそうした実践例がないのかどうか、再度、御確認したいと思います。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

**○教育委員会教育長（近内栄一君）** 渋谷議員の再々質問にお答えいたします。

先ほど部長からも答弁させていただきましたけれども、もう10年以上前から小中高一貫富良野キャリア教育推進会議ということで、その中では、小学校、中学校、高等学校、それから産業界、富良野商工会議所だとか、あるいはふるの農協、それから、ふるのまちづくり未来ラボ推進事業を担っていただいている組織団体、そういったところも含めて参加していただきながら、まず一つ大切なこととしては、学習指導要領の中でも出ておりますけれども、子供たちの成長段階に応じた様々な体験活動を

通して、子供たちの地域に対する思い、そういったものを醸成していく、それから、倫理観、職業観、道徳観、そういったものも醸成していくというふうなことで、基本的に、学校におけるキャリア教育についてはそういったことを包含した教科横断的な取組でございます。

したがって、それぞれの学校で取り組んでいることは非常に多岐にわたります。それを分類しながら、それぞれの学校でどのように進められているのか、情報共有をしながら、小学校で培われた資質、能力を中学校でどのように具体的な子供たちの目標につなげていくのか、そして、そこから先、高校ではどのような形でいよいよ社会に出ていくその基盤をつくっていくのかというふうなことで、情報を共有させていただいているところであります。

そういった中で大切なことは、子供たちの成長段階に応じて、地域との関わり、これは先ほどのコミュニティ・スクール、地域学校協働活動のこととも関係いたしますけれども、そういった場を積極的に小学校、中学校、今後、北海道教育委員会に要望しているのはコミュニティ・スクールを高校にもということでありまして、そういったことを通して、子供たちが地域を知り、地域を愛し、そして、ふるさと富良野でどのようなことができるのか考え、そして、具体的な行動に結びつけていく、そういったことを一貫して進めていくというふうな考えでございます。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

**○2番（渋谷正文君）** 教育長から答弁をいただきまして、連携をして小・中・高とつなげていく、これまでも成長活動を通じていろいろと行ってきたお話も伺いました。

その中で、1点確認させていただきたいのですが、成長活動を支えていく、これは情報共有ともつながるのですが、マイノートを使っていると思います。このマイノートが、小学校で書かれたものを、きちんと中学校、そして高校のほうに上げていくということがしっかりと連携されていれば、私は、その辺りがもう少しやれていくといいのかなというふうな考え方に立っているのですが、そこをしっかりとやるということは、これは、小中高一貫ふるさとキャリア教育のところとつながっていることだというふうに思っているのですが、その件についてお伺いいたします。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

教育委員会教育部長亀淵雅彦君。

**○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君）** 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

マイノートの活用ということでもあります。

いま、議員からもありましたように、マイノートにつきましては、それぞれ小学校、中学校、高校の段階から、子供たちがどのような職業観、将来に対して目指すものについての考え方を、順次、書いていくものであります。その中で、やはり、成長過程の段階において、それぞれの思い、考え方が変わってくるというふうに思っています。その部分をしっかりと小学校から中学校、さらに中学校から高校へということをつなげていくことによって、それぞれ子供たちの目指す姿、目指す思い、目標等というものが醸成されるように、学校側においても、いろいろなキャリア教育、インターンシップ等々の中につなげていくことによって、子供たちの自己有用感等々が醸成されてくるものというふうに思っているところであります。

以上です。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

**○2番（渋谷正文君）** 現状として、人口流出に歯止めがかけていないことになっているという現実が横たわっているかと思えます。答弁をお聞きしたところでは、いろいろと郷土愛につながることをやっけてはいるものの、このことに対する言及はなかったのかなというふうに思っております。

なかなか難しいことではあるかというふうに思っておりますが、改めてお聞きしたいと思えます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

教育委員会教育部長亀淵雅彦君。

**○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君）** 渋谷議員の再々質問にお答えいたします。

人口流出のことについてでございます。

いま、小・中の義務教育の中で、先ほどからもお話をしていますように、ふるさとキャリア教育を進めながら、富良野市、自分のふるさとを思う愛着心等々を養っているところであります。ただ、一つは、やはり、子供たちは、まずは高校の段階で一定程度の子供たちがその後の進路、大学の関係あるいは部活動等々の中でさらに上を目指したいということもあって、市内から市外の高校に流出する子供たちが約3割程度いるのが現状であります。しかし、そんな中で、少しでも子供たちの市外への流出をとどめようということで、いま現在、富良野にあります道立高校2校の再編をし、より魅力ある学校にしているという取組を進めているところであります。

そういうものも含め、また、高校まで富良野にすることによって、より愛着心等々が増え、さらに大学、そして社会人というふうになって、その後、巣立っていくわけでありましてけれども、子供たちが外から改めて富良野を見て、その中でより富良野のよさというものを捉えることによって、そして、いまは働き方の部分もいろいろ

と変わってきております。そんな中では、勤める会社は富良野ではないとは思いますが、地元に戻っても仕事ができるというような働き方もいまはできている状況であります。

そんな部分で、いま現在は人口流出になかなか歯止めがかかっていない状況かもしれませんが、今後、それらを進めていく中で、少しでも流出が少なくなるようなことを進めているところでございます。

以上です。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

**○2番（渋谷正文君）** こういう質問をしましたけれども、人口流出に歯止めがかけていないということは、全国的にもほとんどの行政区であることだということに思っております。そういう意味では、特効薬はなかなかないというふうに思っておりますが、私は、キャリア教育のところで一つ思うところがあります。それは、キャリア教育が、どうしても仕事のキャリア教育、ワークキャリア教育になり過ぎているのではないかということがあります。それは、子供たちがこの仕事をしたいというふうに考えたときに、いまは、インターネットとかいろいろなものを使うことになって調べると。この仕事は富良野ではできないことだねというふうに感じることによって、それがまた、学校教育の中で調べ学習ですとか、そうしたことで補強されて、やっぱり、自己実現をするためには外に出ていかなければいけないというような流れができていないかというふうに思います。

一方、この地域と関わり続けて暮らしていけるというキャリア教育、これはライフキャリア教育という言い方をするんですけども、そうした視点を持って、どうやって地域に関わり続けてこのまちで生きていくか、そのための仕組みを考えていけるかというところにもう少しポイントを置いて、キャリア教育というのを考えていくべきではないかというふうに考えておりますが、このライフキャリア教育の考え方についてお伺いしたいと思います。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

**○教育委員会教育長（近内栄一君）** 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

ライフキャリア教育のお話も出ましたけれども、やはり、キャリア教育の本質というのは、議員がおっしゃるとおり、職業だけの話ではなくて、自分自身、一人一人の生き方をデザインする中で充実した生涯を送れるような、そういったことだと思います。

話がちょっとずれそうなので、キャリア教育を通じた地域に関わる人材育成というふうなことでお話をさせていただきますと、本市におけるキャリア教育でまず大切

なのは、地域を知り、地域に愛着を持つこと、これがまず第一であると思います。その中で、地域とはどういうことなのか、そこを考えるということが2番目だと考えております。そして、考えながら、自分は何ができるのか、行動してみるということ、そして、その一連の流れを通して生き方を確立する、いわゆる一連の行動の中でいろいろな体験があると思います。それを積み重ねる中で、一人一人が自分を確立していくということだと思います。

そういった中で、当然、学校教育では、学校の中での話ですから限界があります。地域のいろいろな人たちとの関わりが必要だということになります。ふらのまちづくり未来ラボ推進事業の大きな目的は、混ぜて学ぶ、いろいろな世代、老若男女の方々が集まってテーマを考え、そして一緒に行動する、体験する、その中で富良野のよさというものを確認する、そして次につなげていくということでございます。

ですから、キャリア教育というのは、そういった意味合いを持って、学校だけではなくて、社会教育の活動も含めて行っていくということで、これまでも行っておりまして、これからますますそういった機会づくりを進めていきたいと考えております。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

2番 渋谷正文君。

**○2番（渋谷正文君）** 地域との関わり、人との関わりについてお話をさせていただきました。

やっぱり、地域で、格好いいな、この人というふうに憧れを持つということはすごい大切なことだと、子供たちについては思います。そうした憧れを持っていただけるような大人とのつながりというのができることを望みます。

次に、コミュニティ・スクールの現状の在り方についてというところに進めさせていただきます。

お話を聞いておりますと、地域とともにある学校と、学校を核とする地域づくりの両面のお話をされて、一体化して進めていきたいというようなことでありますが、私は、一体化して進めるというようなところが逆に分かりづらくしているのかと思っております。

私は、まず、学びの格差があってはいけないとか、子供の可能性を格差があるようなものにはいけないというようなところからすると、まずは学びの部分でそうした足りないところをお手伝いできないかというようなところが最初にあるのではないかと考えております。いわゆる学校側として教育資源として不足している部分を何かしらお手伝いするようなどころというところで、これからは、地域の方が、あるいは家庭も含めて入っていく必要があるというふうに考えておりますが、改めて

伺います。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

教育委員会教育部長 亀淵雅彦君。

**○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君）** 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

コミュニティ・スクールの関係での学びの格差をつけないために、どのようにするのかということだというふうに思っております。

これにつきましては、コミュニティ・スクール、また、地域学校協働活動を進めていく中におきましては、やはり、いま、学びもしかりでありますし、生活面も含め、学校での課題がいろいろ多岐にわたって複雑化している状況にあります。そんな中では、学校だけではその部分の課題解決ができないという現状にあります。そういう中で、それを補完することも含めながら、地域と学校、保護者がそれぞれ連携をしていくことが必要だというふうに思っています。

そんな部分では、いま、まずはコミュニティ・スクールの中でそういう論議がされています。そこで足りない部分を逆に補完するというので、地域学校協働活動の中の各種登録をいただいています学習支援ボランティアだとか、そういう方をいろいろと活用しながら、さらに、そこをつなげる役割としてのコーディネーターがおりますので、コーディネーターの方をうまく活用しながら進めていくことによって、学び、そのほかの格差というものもなくしていく、極力少なくしていく、その中で子供たちの学びをつくっていききたいというふうに思っているところであります。

以上です。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

2番 渋谷正文君。

**○2番（渋谷正文君）** 御答弁いただきましたけれども、この中で、学校の方針、そして、これからこういう形で行ってほしいということを、いわゆるコミュニティ・スクールというか、そこで承認をしていただいて、学校の在り方、進めていくわけですがけれども、その次に、各種課題の意見交換というようなところも答弁があったかというふうに思っておりますが、この部分について、実は、学校間で、いわゆる国の言葉で言えば熟議という言葉を使うのですけれども、表面上の課題、そして、意見交換で終わってしまっていて、本質として、学校としてこういうことを変えていきたい、こういうことをやってほしいというようなところに踏み込んでいっていないのではないかとというような声が私には聞こえてきております。

こうしたところに入っていけるように、教育委員会としても、コミュニティ・スクールの在り方というのをしっかりとお伝えすることが必要ではないかなというふうに考えております。しっかりと伝えるということについ

て、教育委員会からの視点でお答え願います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

教育委員会教育部長亀淵雅彦君。

○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

学校での課題の熟議の部分によりつなげるように、教育委員会がどのように進めていくかということだというふうに思います。

いま、議員がおっしゃいますように、まず、学校の運営方針等々の承認の部分については、コミュニティ・スクールの部分でもうまく進めている状況があります。

ただ、課題の解決に向けていく部分での熟議というのは、やはり、富良野だけではなくて、ほかの地域においてもなかなかできていないというようなことも調査の中で示されています。そんな部分では、本市におきましても、先ほど教育長の答弁にもありましたように、実際にコミュニティ・スクールは、計画であったり部分を承認していく、その実行部隊として地域学校協働活動がございまして、その部分を一体的に進めていくことによって、その解決に少しでもつながっていくと思っています。

そんな中で、地域学校協働活動の委員とコミュニティ・スクール、学校運営協議会の委員が一緒になったりすることによって、課題と実際の部分というのが融合されていくというふうに思っておりますので、さらにまた、それらの推進員、あるいはコーディネーターの資質をより高めていくことによって、それぞれの課題解決にもさらに進んでいくというふうに思っておりますので、その辺をこれからも進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） 御答弁をいただきまして、感じたところがございます。

コミュニティ・スクール、そして、地域とともにある学校、学校を核とする地域づくり、こうしたところのビジョンを皆さんと明確にして共有していくところがまずスタートなのだろうなというふうに思います。この部分をしっかりとやることが、その次のことにどんどんつながっていくというふうに思っております。

どうも、私たちのまちもそうですけれども、ほかの地域においても、このビジョン共有というのが少し不足しているのではないかと思います。それが、最後の情報発信不足というような言葉になってきていると私は感じるのです。ビジョンをしっかりと持って、それを発信していくというような姿勢をもっと明確に示すべきだと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

教育委員会教育部長亀淵雅彦君。

○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君） 渋谷議員の再質問にお答えいたします。

各コミュニティ・スクール間の中でのビジョンの共有をどのように進めていくかということだというふうに思います。

コミュニティ・スクールにつきましては、それぞれの学校、地域によって取組の状況も違っているかと思えます。そんな中では、それぞれのコミュニティ・スクールによってビジョン等々も変わってきている状況だと思えます。

ただ、その部分につきましては、コミュニティ・スクールのある地域、そして、委員間の中でしっかりと情報、目標、ビジョンというものは共有されていかなければいけないというふうに思っておりますので、その部分は、ビジョン等々がしっかりと共有できるように、それぞれのコミュニティ・スクール、また、そこには教育委員会もオブザーバーとして入る部分がありますので、その中でそれらを進めていけるように努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

2番渋谷正文君。

○2番（渋谷正文君） ビジョンについて、再度確認をさせていただきたいと思えます。

いま、学校間での違いというようにお話もされましたが、先ほどのシビックプライド、あるいは郷土愛のキャリア教育のところでは、一貫して進めていくところというお話もさせていただいていたかと思えます。

こうしたところからすると、基本線は同じだけれども、特徴のある取組については学校間でしっかりと示していくというような理解をしたいというふうに思うのですが、最後の質問といたしたいと思えますので、この件についてお答えいただきたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） 渋谷議員の再々質問にお答えいたします。

学校間の違いというふうなことでもございますけれども、市内の学校はそれぞれ地域ごとにあるわけですがけれども、学校と地域の環境というのはそれぞれ違います。住んでいる方々、職業構成、いろいろあります。そういった中で、それぞれの地域で学校が成り立つためにはどうしていくのかということになりますと、全ての学校が全く同じということではございません。地域の実情に応じた形で地域の人たちに参加していただく、そういった中で学校を中心として地域づくりが進んでいく、また、その逆に、学校自体も地域のいろいろな方々の応援をいただき

ながら成り立っていく、そういった関係でありまして、そのところは地域ごとにそれぞれ考えていく必要があると思います。

ただ、一つ大切なのは、どうやったらよりよくなるのか、そういったことを常に学び続けなければいけないということで、そういった意味で、研修会だとか、あるいは、ほかの頑張っているところ、情報発信をしっかりとやっているところの情報を学び、共有する、そういった場を、これまでもつくってききましたけれども、コロナ禍の中でなかなか集まる機会がございました。でも、いまは、インターネットといえますか、ICTを活用した取組も徐々に進んでおります。そういったことも含めて情報共有を進めながら、それぞれの地域が特色を持った、育てたい子供観、子供像をしっかり持った教育環境づくりを進めてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。  
（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、渋谷正文君の質問は終了いたしました。

ここで、10分間休憩いたします。

---

午前11時2分 休憩

午前11時9分 開議

---

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

次に、本間敏行君の質問を行います。

11番本間敏行君。

○11番（本間敏行君） -登壇-

さきの通告に従い、順次、質問させていただきます。  
除排雪業務について。

今年は、12月に入り、やっと積雪となり、富良野スキー場もオープンして、雪の季節となりました。積雪寒冷地である本市は、来春4月まで、除雪対策など、安全で安心して生活できる環境を確保するための対策を十分に行わなければなりません。そのためには、除排雪に対する行政の対応のみならず、市民の協力が不可欠ですが、毎年、広報ふらの12月号では、市の除排雪の取組や市民の皆様への御協力をお願いなどを掲載し、市民周知を行っているところです。

本市では、市民の皆さんが安全で快適に冬を過ごせるよう、車道や歩道の除雪を富良野維持管理協同組合に委託しています。除排雪作業を実施する道路は、市が管理する道路と歩道も含まれ、除雪車の出動基準として、市と業者がパトロールし、降雪状況を見て除雪車の出動を判断するとしています。

出動内容については、連続した降雪があり、新たな積雪が10センチに達したとき、また、わだち、暖気、降雨、吹きだまりにより路面状態の悪化が予想されるときに出動するようにしています。しかし、午後9時から翌日午前3時までの夜間の作業は行わないようになっています。

除雪する時間帯としては、主要な道路と歩道は通勤、通学に支障のないように原則として午前7時30分までに通行可能な状態を確保し、その他の生活道路は午前9時までに除排雪作業が終了できるよう体制を整えています。しかし、長時間の降雪が続く天候のときには、優先道路を反復して除雪するため、生活道路の全部を終了するまでに時間がかかる場合もあるとしています。市民からは、除排雪に頑張ってもらっているのは承知しているけれども、もっと小回りの利いた臨機応変に対応してもらえたらありがたいなどの声も聞かれ、市の除排雪業務に対する一定の理解、評価を得ているものの、除排雪業務に対する要望も多くあると感じているところです。

そこで、除排雪について、市民の声を聞き、個別の事案を含め、対策全般について4点質問いたします。

1点目に、令和3年は、降雪量も少なかったため、まち中全体で排雪が1回にとどまり、まちの中心部では、積み上げられた雪が車道に大きくはみ出し、蛇行しないと通行できないなど、往來に支障を来している場所が散見されました。また、交差点では、積み上げられた雪のため、見通しが悪く、いつ事故が起きてもおかしくない状況が続いていました。

状況改善のための対策について、考えをお伺いいたします。

2点目に、市の環状線とも言える朝日通、若葉通の除雪回数が少ないため、乗用車同士のすれ違いはできるものの、大型車とのすれ違いに危険を感じるなどの市民の声があります。特に、見通しの悪いカーブの辺りが怖いとの声もあります。

バスや大型車が日頃多く通行する道路は、排雪を増やす必要があるのではないかと考えますが、見解をお伺いいたします。

3点目に、幹線道路では早朝に除雪が行われますが、雪が多く降った日は、幹線道路に通じる中通り出口付近には幹線道路除雪の際に硬い雪が残されていることがあります。中通りに除雪が入るのが遅くなる場合は、仕事に行く車が出られないこともあります。

中通りから幹線道路への出入口の除雪時の取り残しについて対策が必要と考えますが、見解をお伺いします。

4点目に、除排雪業務の要望は多いと聞いていますが、令和3年度からGPSプログラムを使用してどのような成果があったのか、また、今後の課題についてお伺いいたします。

以上、1回目の質問を終わります。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

本間議員の御質問にお答えします。

除排雪業務についてであります。除雪は道路の雪を左右に寄せる作業となり、路肩に堆積した雪で車道幅員が確保できない場合や、交差点などに積み上げられた雪により、見通しが悪くなっている場所を対象に、カット排雪を実施しております。特に、幹線道路や通学路、交差点等については、パトロールを強化し、部分的な排雪作業も実施しておりますが、排雪後に雪が車道に積み上げられている状況もあり、連合町内会長会議や広報紙などで除排雪作業に関する御協力をお願いしているところでもあります。

今後におきましても、道路幅員の確保、路面状況の変化に応じた排雪を実施するとともに、道路への雪出し防止について粘り強く周知徹底してまいります。

次に、朝日通及び若葉通の幅員確保についてですが、駅前から桂木町を経由し、国道38号線に抜ける朝日通やその先の若葉通は、大型車両の通行も多い路線であり、また、排雪作業の際の作業路線にも利用することから、随時、パトロールをしながら危険箇所を把握し、安全確保に努めてまいります。

次に、幹線道路と住宅地や生活道路との交差点の除雪時の取り残しについてであります。降雪量が多いときや道路への雪出しなどがある場合には、交差点の雪処理に時間を要する状態となっております。交差点の除雪が遅くなる場合には、委託業者と情報を共有しながら改善に向けた対策について協議してまいります。

次に、GPS機能を使用した除雪管理システムを導入したことによる成果と今後の課題についてであります。令和3年度から運用を開始した除雪管理システムは、全ての除雪作業車にGPS端末を搭載し、車両の位置情報や除雪時間について見える化することで、除排雪業務の効率化が図られているところであります。

また、今後の課題といたしましては、除雪作業における高齢化や人材不足、人材育成などがあり、作業現場における技術の継承や除雪管理システムによる業務の改善を図るとともに、本年度、除雪の出動を判断する深夜パトロールの負担軽減を目的とした積雪情報監視カメラを3地点に設置し、出動要請の自動化について実証実験を予定しております。

今後も、課題解決に向けた検討を進めるとともに、持続可能な除排雪体制の確保に努めてまいります。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 再質問ございますか。

11番本間敏行君。

○11番（本間敏行君） 順次、再質問させていただきます。

す。

1点目の確認なのですが、排雪した後にまた車道に雪が積もっている場合には、町内会のほうと連携して協議を行いながら排雪に努めると、いま、そういう御答弁をいただいたのですが、結局、令和3年度の中心部の間のところは、横は大体真っすぐなのですけれども、縦は1車線の蛇行になっているところがずっと続いていたのですよね。だから、そこら辺を、令和4年度の場合はそれを解消していただけるのかどうかをお聞きします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長北川善人君。

○建設水道部長（北川善人君） 本間議員の再質問にお答えいたします。

除雪作業というのは、市長の答弁にもございましたとおり、雪を左右に押し分けて進んでいくということで、どうしても路肩のほうに堆積していきます。その雪をカット排雪等をして道路の幅員を確保しているのですけれども、その後、どうしても間口処理の関係でまた路肩に出されていくという現象が繰り返されて、道路の蛇行につながっていくということも考えられております。

そういった現象が見られているということも町内会のほうから聞いておりますので、連合会長会議でもお話しさせていただきましたけれども、私もパトロールしながらそういった点については改善していきたいと思っておりますし、情報等を提供していただければ、その現場を確認して対応していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

11番本間敏行君。

○11番（本間敏行君） 1点目の交差点の除排雪についてなのですが、令和4年12月の広報紙にも、交差点が雪山にならないように、随時、除排雪を実施するとあるのですが、そこら辺は、交差点に雪が堆積しているときは、業者のほうでパトロールして見定めてから排除していくのか、それとも、町内会からの連絡があってそれを排除するのか、そこら辺をお聞きします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

建設水道部長北川善人君。

○建設水道部長（北川善人君） 本間議員の再々質問にお答えいたします。

交差点ですけれども、排雪の仕方としては交差点前後5メートルぐらいからカット排雪を行っております。その部分につきましても、排雪した後にパトロールをしながらその状況を確認して、必要に応じて排雪、また、拡幅除雪ということで幅を広げていくような除雪の仕方、それから、高くなった雪山を崩すようなやり方、そういったやり方を検討しながら行っているところでございますけれども、令和4年度につきましても、そういった危

険な場所、特に、通学路、まち中、見通しの悪い部分が出てきた場合には、町内会等々と情報共有しながら対応していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

11番本間敏行君。

**○11番（本間敏行君）** 1点目につきましては了解いたしました。

2点目なのですが、環状線とも言われる朝日通、若葉通ですが、令和3年度は、雪が少なかったとはいっても、1年で排雪を1回しかしていませんから、本当に乗用車が通るのがやっとなぐらいで、朝日通は、バスのほかにコンテナ車も通りますし、いろいろと大型車が通ります。それで、やはり、特に3か所ぐらいあるのですけれども、朝日通、若葉通のカーブのところがすごい見通しが悪くて、すれ違いに恐怖を感じる市民がいることは事実です。

そういう流れの中で、いまの御答弁を聞きましたら、パトロールはしているけれども、排雪するとは言わなかったのですけれども、そこら辺の確認のため、再度、お聞きします。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

建設水道部長北川善人君。

**○建設水道部長（北川善人君）** 本間議員の再質問にお答えいたします。

幹線道路の部分ですけれども、若葉通ですとか朝日通の部分で、カーブの場所ということで具体的に3か所というお話がございました。

カーブは、恐らく、雪がそこにたまって見通しが悪くなっている、もしくは狭くなっているという状況から、市民の方からそういった恐怖を感じるというようなことが言われたのかというふうに想像しますけれども、先ほどもお話ししたとおり、まずは拡幅除雪ということで広げる方法というのを優先に考えており、その後、また状況によりまして排雪ということになります。例年ですと5メートルを超える積雪量ということになってはいますが、令和3年度は、3.6メートルの積雪で、降雪は少なかったということもございまして、全体排雪としては1回だけということになりますけれども、部分的な排雪は、先ほど申し上げたとおり、カット排雪等は随時行っておりますし、カーブ部分だけとか、そういった部分でも対応していきたいと思っております。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

11番本間敏行君。

**○11番（本間敏行君）** 2点目も了解いたしました。

3点目ですが、大雪が降ったとき、令和3年あたりを見たら大体4回から5回ぐらい、ふだんのときは何ともないのですけれども、やはり、環状線の除雪は午前4時

ぐらいから入りますから、4時ぐらいから入ってがっつ押し進めたら、結構な、本当に30センチ、40センチの雪を残しているときがあります。それは毎日ではないですよ。令和3年でいったら、大体5回ぐらいはありました。だけど、そういうことになってしまって、大雪のときですから、先ほども私の説明の中であつたのですけれども、通常、午前7時半までに通路を確保するという市の体制なのですが、大雪が降ったときは、実際には午前9時ぐらいでなければ横道に出る道路の雪を取りに来てくれないのです。

だから、そこら辺は、最低でもいいですから片道だけでも空けてくれば、車が出られるようにさえしてくれば、私は、市民にとってみればすごく都合のいいことだと思うのですけれども、それを午前9時までそのままにしていると本当に乗用車で出ていきません。4WDでも多分出られないと思います。硬くて、30センチから、下手をしたら40センチも置いていかれるのです。

だから、やはり、それを考えてほしいと思います。いまはGPSも使っているのだから、そこら辺はどうにかうまくできないかと思うのですけれども、そこら辺の対応、年に四、五回ですけれども、そこら辺をちゃんと削る。片側だけでもいいのです、押しつけて車が出られるようにしておいてくれれば助かるのですけれども、そこら辺はどういう具合に考えているか、お伺いします。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

建設水道部長北川善人君。

**○建設水道部長（北川善人君）** 本間議員の再質問にお答えいたします。

中通り、いわゆる住宅地と幹線道路との交差部のところだと思います。

先ほど本間議員からもお話がありましたけれども、除雪作業につきましては、通勤・通学時間の午前7時半までに終わるということで、生活道路を含めて午前9時までには終えたいということで目標を定めて行っております。ただ、降雪量が多い場合につきましては、全車線をそのときに1回で確保するということは困難ですので、ほかの路線の遅れが出てしまいますので、最低でも1車線は確保してくださいということで、まずは1車線の確保を行っているところです。幹線道路などは、グレーダーと除雪ドーザーが追従して一緒に行っていくところなのですけれども、どうしても、グレーダーは真っすぐ幹線だけを走る、そして、除雪ドーザーは間口処理、いわゆる交差部を整理して走るということで、積雪量の多い場合はタイムラグというのができてしまいます。

そういった部分もございまして、いま議員がおっしゃられたとおり、GPS機能がついておりますので、そういった遅れが出ている部分については私どもでも把握できますし、受託業者でも画面で確認ができていますとい

うこともございますので、先に終えた除雪ドーザーを回すとか、そういった対応が可能になるというふうに考えておりますので、令和3年度から始まったGPS機能ということで、また、それぞれの業者と、使い方、利便性の確保というか、向上に向けて意見交換しながら改善していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。  
（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、本間敏行君の質問は終了いたしました。

ここで、5分間休憩いたします。

---

午前11時29分 休憩

午前11時32分 開議

---

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

次に、宮田均君の質問を行います。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） -登壇-

通告に従い、順次、質問させていただきます。

JR根室線富良野-新得間について、3点伺います。

JR北海道は、2016年、維持困難な路線13線区を発表、富良野を取り巻く富良野-新得間はもちろん、次は、富良野-滝川間、富良野線富良野-旭川間にも大きな影響を与え、長距離、大量輸送できる客車、貨物、地域生活と経済に不可欠な公共交通の核であり、安全で環境に優しい鉄道の存続は地域に不可欠であると考えております。

欧州、イギリスでも来年度には再国有化、ドイツ、フランスも株式会社化されていますが、実質的に国が出資し、地域鉄道が存続しています。

令和4年3月7日、富良野-新得間存続の再考を求め、石北沿線ふるさとネットワーク（北見市）、根室本線の災害復旧と存続を求める会（新得町）、富良野鉄道未来の会の3者の声明を沿線市町村に提出、道東、道北を一周する円環路線を形成する重要な広域観光ルートと位置づけ、鉄路廃止は、根室線、釧網線、石北線、全ての市町村に影響を及ぼす問題と指摘しております。

以上、根室線富良野-新得間の存続を求める立場から質問させていただきます。

1点目に、バス転換への現在の協議の状況についてお聞きします。

2点目に、富良野-新得間復旧について、石勝線が、直接、新千歳空港に入る予定と聞くが、空港から占冠、トマム、上落合信号場、幾寅、富良野の路線は将来に残す有効な路線と考えるが、考えを伺います。

3点目は、富良野駅利用促進について2点伺います。

1点目に、駅の利用促進に、高齢者、多くの荷物を持つ外国人などに駅のバリアフリー化は欠かせないと思うが、JR北海道との協議はないのか、伺う。

2点目に、近年、サイクリング人口が増え、富良野近郊も景観のよさなどから訪れる方は多い。欧州では自転車をそのまま載せられるが、富良野沿線、根室線を含めてもこの取組はできないのか、JR北海道との利用促進に向けた協議はどのようにされているのか、お伺いいたします。

次の質問は、「邪神ちゃんドロップキックX」富良野編について、2点お伺いします。

内容の検証と今後の作品の観光誘客に向けた使い方についてお伺いいたします。

1点目に、作品内容の委託先との協議をどのようにしたのか、また、その成果品をどのように評価したのか、お伺いいたします。

2点目に、今後、この作品を観光誘客にどのように使う考えなのか、お聞きいたします。

続いて、新庁舎について、3点お伺いいたします。

新庁舎が開庁になり2か月が経過しましたが、旧庁舎の解体、駐車場の整備、南側出入口の取付けなど残り、まだ全て完成とまではいけなく、市民の皆様には御不便等をおかけしているところですが、1点目に、新庁舎を訪れる方に富良野を市内外に発信する場づくりとして、特産品の展示、富良野観光の情報発信が必要と考えるが、考えをお伺いいたします。

2点目に、富良野の文化、芸術を感じる展示物についてお伺いいたします。

絵画、彫刻、書など、富良野の文化、芸術を感じる展示物は必要と考えますが、今後、文化、芸術を感じる展示物の展示をどのように考えているのか、お伺いいたします。

3点目は、市民の目線に立った使いやすい庁舎について、3点伺います。

1点目に、来庁された方が分かりやすい窓口、各係への案内表示など、シミュレーションされたと思いますが、再度、より分かりやすくする必要があると考えるが、考えをお伺いいたします。

2点目に、高齢者、身障者に配慮した庁舎内手すりの設置など、入り口から援助が必要な方への対応をどう考えているのか、お伺いいたします。

3点目に、へそキッズランドでの親の手続、相談時のいつとき、子供の目配りなどができないものなのかお伺いして、1回目の質問とさせていただきます。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

宮田議員の御質問にお答えします。

1件目のJR根室線富良野―新得間についての1点目、バス転換への協議の状況についてであります。鉄道存続のため、JR北海道から求められた年間10.9億円を負担することは困難であることを令和4年1月に関係4市町村と北海道とで確認した後、市内4会場で開催した地域説明会でいただいた様々な御意見を踏まえ、根室本線対策協議会構成市町村のうち、関係する市町村による幹事会において、住民説明会で告示した新たな交通体系ルート案の具体化に向け、協議を進めているところであります。

現時点においては、関係市町村及び北海道、JR北海道で、既存バス路線を生かしたルート案について、具体的な運行ダイヤをはじめ、利用者の利便性が確保されるよう検討しているところであります。

2点目の富良野―新得間復旧についてであります。新千歳空港から幾寅等を経由して富良野に運行することにつきましては、平成28年の大雨災害による被災区間の復旧が前提となることから、これまでの議論の経過を踏まえれば、その実現の可能性はないものと認識しております。

3点目の富良野駅利用促進についてであります。駅のバリアフリー化につきましては、これまでも根室線アクションプラン実行委員会において、利活用促進策の一環として駅構内のバリアフリー化について協議を行っております。バリアフリー化は、鉄道の利用促進のため重要な要素と認識しておりますので、引き続きJR北海道側と協議してまいります。

次に、サイクルトレインの導入に向けた協議についてであります。富良野美瑛広域観光推進協議会の取組や根室線アクションプランに伴う打合せで、利活用促進に向けたアイデアの一つとしてJR北海道とも協議しておりますが、自転車の固定をはじめとした安全面と積載スペースの確保などが課題となっており、本格導入は難しい状況にあると認識しております。

2件目の「邪神ちゃんドロップキックX」富良野編についての内容の検証と今後の作品の観光誘客に向けた使い方についてであります。作品内容の協議につきましては、制作側から、本件についての御提案をいただいた際の協議以来、その後も、プロットの提示など、その都度、庁内の関係部署や市内関係団体と協議を重ね、市内観光資源の抽出、ふらのワイン50周年記念事業とコラボしたふるさと納税返礼品の展開、作品の活用方法などについて検討してまいりました。

その成果品につきましては、本市に特化したアニメの制作、放送により、市内観光スポットなどを紹介することで、アニメのファンなど新たな顧客層への訴求とともに、海外も含めた配信により、富良野市の知名度をより

高めることで観光振興を図るという目的を達しているものと評価しております。

今後の観光誘客対策につきましては、これまで同様の取組を進めておりました釧路市、帯広市とも、放送後の活用に向け、市内や本市と道東地区との周遊を目的とした誘客事業や、アニメ、声優を活用したイベントの連携などの可能性について協議してきたところであり、今後も、制作側の御協力を含めた具体的な方策について検討してまいります。

3件目の新庁舎についての1点目、新庁舎来訪者への富良野の紹介についてであります。新庁舎では、掲示や展示場所を集約するとともに、デジタルサイネージや大型モニターを活用しております。

メイドインフラノなど特産品の展示につきましては、必要に応じて、1階のFプラザや2階のホワイエを展示スペースとして活用していただくこととし、観光の紹介につきましては、1階へそキッズランド横の掲示スペースに観光案内パンフレット等の配置と併せ、Fプラザの大型モニターで動画の放映をすることで、富良野市の紹介を行っております。

2点目の富良野の文化、芸術を感じる展示物についてであります。新庁舎では、来庁者が多い1階のFプラザや2階のホワイエを展示スペースと位置づけており、市民や団体の要望等に応じ、絵画や彫刻、書などを展示し、多くの来庁者に紹介することで、富良野の芸術文化の振興発展に寄与することができるものと考えているところであり、より多くの方々に利用していただけるよう、新庁舎では期間を設けて展示をすることとしております。

3点目の市民の目線に立った使いやすい庁舎についての来庁者への分かりやすい窓口、各係への案内表示等につきましては、新庁舎での案内は、1階総合案内、総合窓口において、来庁者の利用目的などを聞き取りしながら案内しているところであります。よりスムーズに案内できるよう、総合窓口へ誘導する案内サインを追加設置したところであります。

次に、高齢者や障がい者に配慮した庁舎内の手すりの設置など、入り口から援助が必要な方への対応についてであります。手すりにつきましては、スロープや階段など、高齢者や障がいのある方に配慮した設置をしております。

また、入り口から援助が必要な方につきましては、当面の間は職員の声かけや総合窓口で対応することとしております。来年度完成予定の南側玄関の風除室内に、視覚障がい者などの誘導用に総合窓口へつながるインターホンを設置して対応することとしております。

次のへそキッズランドにつきましては、教育長からお答えいたします。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続けて、御答弁願います。

教育委員会教育長近内栄一君。

○教育委員会教育長（近内栄一君） 一登壇一

宮田議員の御質問にお答えいたします。

3点目の市民の目線に立った使いやすい庁舎についての子供の遊び場、へそキッズランドにつきましては、小学3年生までを対象に保護者同伴で利用いただいております。

乳幼児とともに来庁された市民の市役所での手続や相談時の対応につきましては、へそキッズランドでの預かりは行っておりませんが、必要がある場合はそれぞれの課において適切な対応をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 再質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） J R根室線富良野一新得間について、1点目のバス転換への協議の現在の状況についてお聞きしました。

J R北海道との協議により、根室線富良野一新得間の災害復旧の負担金は非常に難しいということで、バス転換で、いま、協議が進んでいる、その協議で動いているという答弁をお聞きしましたが、やはり、もう少し、1度のバス転換への説明会でしたが、地元とのもう少し深い、今後の市民との協議、それから沿線との協議をもう少し深くすべき、そして、やはり、鉄道の廃線に対する地元の考えというものを、国、北海道にもっとこちらのほうから積極的に推し進めるべきでないかというふうに思いましたが、その点についてお伺いいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長小笠原竹伸君。

○企画振興課長（小笠原竹伸君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

住民、それから沿線、あるいは国、北海道へ考えをもっと伝えるべきではないかという趣旨の御質問であったと思います。

その点につきましては、令和4年1月の首長との10.9億円の負担は難しいという確認をさせていただいた、その前の段階でも、るる、国あるいは北海道、それから、北海道内選出国會議員をはじめ、各方面への働きかけを進めてきたところでございます。また、沿線自治体との協議につきましても、この間、16回に上る幹事会を含め、それぞれ意見交換を進め、また、令和4年は、3月の住民説明会、さらには7月の連合町内会長会議、そして、令和4年10月から11月に実施した地域懇談会でも状況について御報告してきているところでございます。

そうしたところで、可能な情報提供、あるいは取組というのは進めてきた上での現状であるというふうに認識しているところでございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 協議されてきたということで、国のほうにも、北海道のほうにも、協議を行いながら議員に頼んでやってきたというようなことで、十分やってきたのだというようなことでお伺いいたしました。

しかし、やはり、まだ存続を市民の方では諦めていない方々もいらっしゃる、沿線、あるいは富良野だけではないという現状をどのようにお考えなのか、お聞きいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 暫時休憩いたします。

---

午前11時54分 休憩

午前11時57分 開議

---

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いまの質問なのですが、J R根室線富良野一新得間のバス転換の協議の現在の状況についてという中で、バス転換を含めて協議が進んでいるということなのですが、この復旧に関してどのように考えるかということについては、通告の中に要旨として入っていなかったということで、それはルール違反だというようなことを言われましたので、取り下げさせていただきます。

続いて、2点目に移らせていただきます。

2点目は、富良野一新得間復旧についてなのですが、いま答弁いただきました。財政負担が多過ぎるから復旧は無理だという考えなのですが、国、北海道のほうに支援を要請されたと思うのですが、これについて、国、北海道に要請した回答というのはどのようにいただいたのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 宮田議員、内容を精査して、通告からずれないように質問してください。

○1 番（宮田均君） 富良野一新得間復旧の2点目について、私は、新千歳空港からこの富良野までの路線は非常に有効と考えますが、これについての答えは、J R、要するに国の負担が非常に多く難しいという答えだったと思います。

この答えだけで、国、北海道の支援とか、そういうものを含めて結果を出したのか、もう一度お伺いいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 暫時休憩いたします。

---

午後0時00分 休憩

午後0時2分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 質問内容を変えさせていただきます。

私は、新千歳空港、そして占冠、トマム、上落合、幾寅、富良野路線、これは将来に残す有効な路線と考えるが、考えを伺うということで質問したのですけれども、市はこの路線をどのように考えているのか、廃線だからということではなくて、どのように考えているのかということをお聞きしたのですけれども、その点についてお願いします。

○議長（黒岩岳雄君） 暫時休憩いたします。

午後0時3分 休憩

午後0時3分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

ここから、午後1時まで休憩いたします。

午後0時4分 休憩

午後1時1分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

御答弁願います。

企画振興課長小笠原竹伸君。

○企画振興課長（小笠原竹伸君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

新千歳空港から幾寅等を経由して富良野に運行することにつきましては、大雨災害による被災区間の復旧が前提となりますので、これまでの議論の経過、確認内容を踏まえれば、その実現の可能性はないというふうに認識しております。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いま、復旧のめどが立たないから可能性はないということで、今後、国、北海道への支援をお願いするということで、引き続きお願いしたいと思いますが、続いて、3点目の質問に移りたいと思います。

富良野駅利用促進について、2点のうち、1点目はバ

リアフリー化を引き続き行っていくという御答弁だったと思いますが、相当昔、橋上化の話がございましたときにはバリアフリーの話も出ておりましたが、あれからかなりの時間がたっておりますが、バリアフリー化は、ヨーロッパ、アメリカなど、小さい駅でも観光地になりますとベルトコンベアがついていたりとか、大きい荷物、あるいはたくさん持っている方に不便のないような取組がされていると思うのですが、ちょっと時間も長過ぎて、どのような内容で話されているのか、もう一度お聞かせ願いたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長小笠原竹伸君。

○企画振興課長（小笠原竹伸君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

バリアフリー化の協議の状況についてでございますが、これまで、根室本線対策協議会としましても、各駅乗降場の乗降ホームと車両ステップの段差解消及び駅の構内全般にわたるバリアフリー化について要望を重ねてきた経過がございます。

JR北海道側としても、段差解消などの可能な取組は進めてきていただいておりますが、特に、ホーム間を結ぶ階段も大きな課題の一つであると認識しております。

ここについては、一時、エレベーターの設置なども検討された経過があるようでございますが、この点については、ポップブリッジとの位置的關係などから物理的に困難であるというような結果となっておりますので、引き続きJR北海道のほうとは可能な部分について、協議を重ねてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 承知いたしました。

早い実行、バリアフリー化が実現されるといいと思っております。

2点目の列車にそのまま自転車を載せることができるか、できないかという質問についてなのですが、固定するのが難しいという答弁をいただきました。

これについてなのですが、ヨーロッパのほうではやっているのですが、難しいだけで前には進んでいないのでしょうか、その点、お聞きしたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長小笠原竹伸君。

○企画振興課長（小笠原竹伸君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

サイクルトレインにつきましては、観光利用の面でも可能性は有しているのかというふうな認識を持っているところでございますが、安全の確保の面から、乗客との隔離であるとか積載に要するスペース、それから、専用

の固定具をそこに設置しなければならない、あわせて、そこでは固定に当たる人手の確保も必要になるとJR北海道からの見解を得ております。

それらの改造を施したとしても、特に北海道においては冬場の利用がなかなか見込めないという部分もございますので、本格導入については現状は難しいというふうに認識しているところでございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いまの答弁なのですが、導入は難しいというのは、導入できないという意味合いなのでしょうか、それとも、これからも協議を続けていくということなのでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

企画振興課長小笠原竹伸君。

○企画振興課長（小笠原竹伸君） 宮田議員の再々質問にお答えいたします。

難しいということはどういう意味なのかという御質問ですけれども、釧路方面でも実際にサイクルトレインというのは試験運行されておりまして、そうしたところでの課題感ということも私どもでも共有をさせていただいております。釧路の場合は専用の列車を設けてそこへ積載するのが10台程度しか積めなかったというところであれば、それ専用の車両を確保していくことを考えると、冬場はその車両をどうしても休ませなければならないという意味では、大規模な導入というのはなかなか難しいというふうに認識しているところでございます。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） サイクルトレインは、ヨーロッパなど、そういう事例、実際に客車の一部を使ってやっているところもございます。冬場のところもございます。これからも協議を続けていっていただきたいと思いますが、次の質問に移らせていただきます。

「邪神ちゃんドロップキックX」富良野編について、2点伺います。

作品の検証と今後の作品の観光誘客に向けた使い方について、2点伺います。

1点目に、作品内容の委託先との協議をどのようにしたのか、また、その成果品をどのように評価したのか、伺いました。これについては、成果品を見て問題ないというような答弁だったと思いますが、成果品が出来上がるまでの内容、ストーリーの協議は実際にどのように行われたのか、もう一度、お聞きします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

「邪神ちゃんドロップキックX」の成果品、ストーリーに対する委託業者との協議であります。こちらにつきましては、あらずじとなるプロット、台本、絵コンテ、実際にできてきたアニメーション、それらにつきまして、実際にはeメールでやり取りし、市の関係者、また、ふらの観光協会の方などにも内容の確認をしていただき、若干の修正もお願いしながら確認してきたところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いまの総務部長の答弁ですと、成果品と言ったと思うのです。答弁の中に成果品とあったと思うのです。

僕が言っているのは、作品の内容の委託先との協議、要するに、成果品ができるまでの内容の協議というのをどのようにしたのかということでお聞きしたのですけれども、もう一度お願いできますか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再々質問にお答えいたします。

内容についての協議ということでありまして。

繰り返しになりますけれども、アニメの内容につきましては、あらずじでありますプロットと言われるものと、アニメの台本、コマ割りなど、絵も含めた絵コンテ、実際に完成前のアニメーション、それらの内容を市役所の内部の関係部署、外部も含めて確認してきたところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） ということは、委託先と内容の協議を十分に行った、そして、その内容については成果品を受け取ったと、市のほうでもこの内容については十分に協議してオーケーを出したということの認識でよろしいでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

先ほど答弁をさせていただいた様々な段階でのストーリー、それと、言葉も含めて、内容の確認を庁舎内、外部も含めて行ってきた結果、確認をし、また、修正をいただくところについては若干の修正もいただきながら行ってきたところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 内容を確認したということ、成果品を評価したということで、問題ないということの御答弁だったと思います。

2 点目、再質問させていただきます。

観光誘客にどのように使うのか考えていくということでは、当初言っていた中国とかその他の方面への観光誘客についての今後の見通しというのが、釧路、帯広とともにやっていくのだというような御答弁だったと思うのですが、今後を含めて、いまはもう令和4年度で、観光誘客活用事業ですか、アニメコンテンツが入っているのかどうか。ホームページを見ますと、ふるさと納税の部分は令和3年度から更新されていないように思うのですが、観光誘客の内容については、この「邪神ちゃんドロップキックX」を今後、やはり続けていくというような考えだとお聞きしておりますので、今後、第2弾、第3弾と続けていくと思います。

このように、今後、この作品を観光誘客にどのように使うのかということ、これからは放送局と一緒に使っていきのたということをお聞きしましたが、今後、この作品が、ふるさと納税とともに第2、第3というふうにしてやっていくということでお聞きしておりますが、その確認をお願いいたします。

○議長（黒岩岳雄君） 暫時休憩いたします。

午後1時15分 休憩

午後1時19分 開議

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

宮田議員、質問内容を整理して、改めて質問してください。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 「邪神ちゃんドロップキックX」富良野編について、今後の観光誘客に向けてどのようにこの作品を使うかという考えについて再質問させていただきます。

この作品を観光誘客として今後も使っていきのたかということだけ、もう一度確認したいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

今後の観光誘客対策につきましては、これまで同様の取組を進めておりました釧路市、帯広市とも、放送後の

活用に向け、市内や本市と道東地区との周遊を目的とした誘客事業や、アニメ、声優を活用したイベントの連携などの可能性について協議してきたところであります。今後も、制作側の御協力も含めた具体的な方策について検討してまいります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 続いて、3点目の新庁舎について3点伺った内容なのですが、1点目の新庁舎を訪れる人に市内外に発信する場づくりとして特産品とかという質問に対してなのですが、必要に応じて、あるいは、1階Fプラザの大型スクリーンでやるのだ、そして、情報発信については、あそこの各壁に置いてある広報ふらのだとか、そういうものと一面になったところに書物として、ガイドとして置くのだという答弁だったと思います。

旧庁舎だと、若干ですが、掲示物が飾ってあったようなことで覚えておりますが、そのように、いまの発信としては、あそこの掲示のところでその情報発信だけと考えているのか、今後、Fプラザ、大型スクリーンだけと考えているのか、もう一度お聞かせ願いたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

新庁舎におきましては、掲示するスペースなどが非常に限られているということもあり、場所の集約を行っております。1階へそキッズプラザ横の掲示スペースに観光情報のパンフレットなどの配置をさせていただいております。あわせまして、観光情報につきましては、大型のディスプレイ、またはデジタルサイネージ、そういったものを活用して、動画または画像としてお知らせをするということで、富良野市の紹介を行っていくということでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いまの質問で、そういうのは展示する、あるいは、展示スペースがないので飾るつもりはないということと理解いたしました。

2点目の富良野の文化、芸術を感じる展示物についての質問だったので、これは、いままでの寄贈された絵画とか書など、これは全く展示しないという理解でよろしいでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

文化、芸術を感じる展示物についてでございます。

新庁舎では、市民交流スペース、Fプラザを展示スペースということで予定してございます。あわせて、2階のホワイエも含めて、市民の方、また各種団体の要望に応じて各種展示を行えるスペースということで開放しているところであります。この部分に関しましては、より多くの方、より多くの団体に展示などを行っていたく、そのことで市民のにぎわいや集まっていたける場をつくるということを目的として掲げておりますので、展示につきましては期間を限定しての展示ということで予定しているところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いま私が質問したのは、いままで寄贈されているような絵とか書とか、展示されていたものの、例えば芸術性の高いようなもの、いまは、希望があったら期間を決めて市民のを飾りますよと、それは分かりますよ。ただ、いま僕が言っているのは、いままで展示されていたもの、あるいは寄贈されたものを全く展示しないのですかと聞いているのです。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再々質問にお答えいたします。

旧庁舎に展示をしておりました絵画などにつきましては、全てではありませんが、博物館などに設置し直しております。

新庁舎におきましては、基本的には常設展示はしないということで、建物のコンセプトとして進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いまの答弁ですと、展示はしないと。いままでのものは生涯学習センターのほうでということなのですが、展示しないコンセプトというのを聞かせていただけますか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

新庁舎の構造上、展示ができるスペースというのは、1階のFプラザ、加えて、2階のホワイエということになっております。Fプラザとホワイエの活用方法につきましては、庁舎建設の段階から使い方の検討をしてきた

ところでございますので、その方針に沿って、現在、運用を行っているところでございます。

以上でございます。

○1 番（宮田均君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） 展示についてはFプラザとか2階のホワイエとかと言っていますけれども、問題が、いままで市庁舎あるいはいろいろなところの壁面に飾ってあった、寄贈されたような文化、芸術を感じる展示物を今後飾るのか、飾らないのかと。飾らないということですよ。

でも、答弁ではFプラザとかそういうところの話ばかり出てきて、そういう作品をこれから市長室あるいは議長室においても飾らない、あるいは、ロビーについても飾らないという確認でよろしいですか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

総務部長関澤博行君。

○総務部長（関澤博行君） 宮田議員の再々質問にお答えいたします。

市長室、議長室、また市長応接室につきましては、名誉市民の方、また、歴代の市長、議長の肖像画を展示するために前もって壁面の補強を行って、実際に、現在、展示をさせていただいているところであります。

そのほかのスペースにおきましては、Fプラザ、ホワイエにつきましてはワイヤーでつるして展示ができるという準備は行っておりますけれども、現在のところ、常設展示については予定していないということでございます。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1 番宮田均君。

○1 番（宮田均君） いまお聞きしたように、現在のところは、その用意もないので展示することは考えていないということでお伺いしました。

最後の質問にさせていただきたいと思えます。

3 点目の市民の目線に立った使いやすい庁舎についてです。

3 点お伺いした中の1 点目は、南側の玄関がまだできていないことから、案内表示盤をシミュレーションされたと思いますがということですが、市側もかなり前向きに考えているということで、今後、来年に向けて、新しく玄関ができたときには、そのような形でまた市民に分かりやすいような案内表示などができるような形でということに理解したいと思えます。

2 点目の市庁舎内の手すりの設置など、入り口から援助が必要な方についてということの答弁についても、南側玄関ができてからは、配慮の必要な方、援助が必要な方についてはインターホンで対処するというところで、納

得したいと思います。

3点目のへそキッズランドでの親のしつぽ、相談などのときの子供への目配りなどができないものか伺うということについては、各課でそのように対応していきたいというような答弁で納得したいと思います、一つだけ、教育長がおっしゃったのは、小学校3年までと限定されておりましたが、これは、原則、小学3年までではないでしょうか。そこら辺だけちょっとお聞かせ願いたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

教育委員会教育部長亀淵雅彦君。

○教育委員会教育部長（亀淵雅彦君） 宮田議員の再質問にお答えいたします。

教育長の答弁の中で、利用については小学校3年生までを対象にということで答弁させていただきました。

基本的には、原則ということで考えています。やはり、保護者同伴で使っていただくというのがコンセプトでありますので、その中で、保護者の方にきちんと目配りしていただき、危険のないよう、安全な形の利用をしていただきたいというふうに思っています。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

1番宮田均君。

○1番（宮田均君） 今後も、この新庁舎が、市民の使いやすい、そして文化、芸術を感じるような新庁舎になるように前向きに取り組んでいただきたいと思つて、質問を終了させていただきます。

○議長（黒岩岳雄君） よろしいですか。

（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、宮田均君の質問は終了いたしました。

ここで、5分間休憩いたします。

---

午後1時33分 休憩

午後1時36分 開議

---

○議長（黒岩岳雄君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

休憩前の議事を続行いたします。

次に、佐藤秀靖君の質問を行います。

12番佐藤秀靖君。

○12番（佐藤秀靖君） -登壇-

通告に従い、本市が取り組むべき環境政策の在り方について、順次、質問してまいります。

今年、初雪が例年よりかなり遅く、積雪となったのは12月に入ってからとなり、温暖化がじわりと進んでいることを実感させられました。今年も日本各地で異常気象による自然災害が多発し、全世界的規模でも、台風、

大雨、干ばつ、熱波、大雪、寒冷などが頻発しており、気候変動に対する対策が待ったなしの状況です。

こうした異常気象の顕在化に対し、平成27年に国連気候変動枠組条約締約国会議、COP21で成立したパリ協定で、低炭素社会から脱炭素社会構築へと地球温暖化に対する取組が強化されました。日本においては、令和3年に地球温暖化対策推進法を改正し、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにする目標を明記しました。

こうした状況を踏まえて、本市では、令和3年4月に2050年ゼロカーボンシティを表明し、第3次富良野市環境基本計画・地球温暖化対策実行計画を策定し、脱炭素社会構築に向けた本市の方針を明確にしました。本市では、徹底したごみの再資源化に取り組み、そのリサイクル率は約90%と高い水準で推移しており、市民のごみのリサイクルに対する意識も高く、脱炭素社会構築に向けた取組の素地はできていると思われまふ。

令和4年第1回定例会で、市民福祉委員会からの報告でも取り上げられていますが、ごみのリサイクルに対する市民の意識の高さを脱炭素社会構築に向けてどのように向けていくか、市民との協働、市民が主役の脱炭素社会構築をどのように進めるかが今後の取組に大きく影響するものと考えまふ。

そこで、本市が取り組むべき環境政策の在り方について、3件質問してまいります。

1件目は、循環型社会のまちづくりについて。

市内では、黄色いごみ袋、固形燃料ごみに分類され、製造されるRDFが年間2,000トン以上ありますが、市内で消費されるRDFはおよそ10%程度であり、製造されるRDFのほとんどが市外に運搬され、工場等の熱源として消費されています。

しかし、昨今の燃料高騰の影響を受け、RDFの売却収入よりも運搬費が上回り、赤字となっています。また、運搬に伴い、CO<sub>2</sub>の排出もあることから、市内でのRDFの地域内消費や有効活用等の対策が必要と考えまふが、見解を伺いまふ。

また、現在、ハイランドふらので調整運転中のRDFボイラー完成に向けて、令和4年度中に完成を目指すとしていたと承知しておりますが、現状はどうなっているのか、課題はあるのか伺いまふ。

2件目は、脱炭素社会のまちづくりについて、6点伺いまふ。

1点目に、令和3年度に行ったゼロカーボンロードマップ策定に向けたポテンシャル調査の結果が令和4年7月に報告されています。この調査から見えてきた本市の再生可能エネルギー導入に向けた考え方とロードマップ策定の進捗状況を伺いまふ。

2点目に、J-クレジット制度の活用について。

J-クレジット制度とは、省エネ設備の導入や再生可

能エネルギーの利用によるCO<sub>2</sub>等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO<sub>2</sub>等の吸収量をクレジットとして国が認定する制度で、このクレジットを売却して収入を得ることができ、一方で、CO<sub>2</sub>を排出する企業等がクレジットを購入することでCO<sub>2</sub>の排出を削減したとみなされる制度で、ポテンシャル調査では触れられておりませんでした。本市の脱炭素社会構築に向けた取組を広く市内外にアピールし、本市のイメージアップや、脱炭素に取り組む企業やCSR、企業の社会的責任や社会貢献を積極的に果たす取組等に注力する企業等の関係構築など、副次的なメリットが大いに期待できるJ-クレジット制度の活用が有効と考えますが、見解を伺います。

3点目に、現在、再生可能エネルギー導入促進事業で太陽光発電システムやペレットストーブ、まきストーブ購入に対する補助を行っていますが、これらの対象のみならず、ZEB建築、ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディングやZEH住宅、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス、HEMS、ホーム・エネルギー・マネジメント・システム導入などへの補助の拡大を検討してはどうかと考えますが、見解を伺います。

4点目に、国は、公共施設への太陽光発電施設設置を積極的に進めるよう自治体に求めています。

本市では、令和4年7月に、西町にある水処理センター内にPPA、電力販売契約方式による太陽光発電所を設置しました。このPPA、電力販売契約方式とは、太陽光発電システム設備を初期費用ゼロで導入でき、契約期間終了後には設備を譲り受ける代わりに、契約期間終了までの間は設備提供事業者が使用した分の電気代を支払う電力販売契約方式のことですが、こうしたよき事例がありますので、積極的に太陽光発電施設の設置を検討すべきと考えますが、見解をお知らせください。

5点目に、令和4年第3回定例会において、宇治議員のゼロカーボン先行地域エントリーの質問に対し、ゼロカーボン先行地域エントリーを念頭に置いたモデル地区の選定を行うとの答弁がありました。

この先行地域エントリーは、相当ハードルが高く、エントリーの条件として、モデル地区を設定し、モデル地区内の地域課題の解決も含めた脱炭素社会構築の取組を考えなければいけないとのことですが、選定の進捗状況を伺います。

6点目に、令和2年度に行った環境市民意識調査を基にした脱炭素社会構築に向けた市民意識の醸成をどのように行っていくのか、考えを伺います。

最後に、3件目は、環境を基軸とした産業、観光の好循環サイクルの構築について伺います。

これは、前環境基本計画から引き継ぐ施策として、現計画のコンセプトとして継承されています。

令和4年は、テレビドラマ「北の国から」放映40周年記念事業が終了し、自然との共生などのドラマのコンセプトを受け継いで将来へ残すため、「北の国から」のロケ地やロケセットという見せ方のみならず、環境問題について考える施設や環境問題を考えるためのテーマパークなどに見せ方を変えることにより、本市のリサイクルへの取組や脱炭素社会構築に対する積極的な取組をアピールすることにより、環境を基軸とした産業、観光の好循環サイクルが実現できると考えますが、見解を伺い、1回目の質問といたします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市長北猛俊君。

○市長（北猛俊君） -登壇-

佐藤議員の御質問にお答えします。

1件目の富良野市が取り組むべき環境政策の在り方についての1点目、循環型社会のまちづくりについてであります。本市の廃棄物政策の柱であります固形燃料ごみから生産されるRDFは、令和3年度実績で、市外利用が95%、市内利用は5%となっております。また、RDF運搬費用は、近年の燃料、人件費の高騰により販売額を上回る状況となっており、RDFの事業継続や第3次富良野市環境基本計画に掲げる地域循環共生圏の構築に鑑みると、RDFの市内利用の拡大は必要であると考えております。

今後の市内利用拡大については、市内2か所で稼働しているRDFボイラーで培った知見を生かしながら、2050年ゼロカーボンシティ実現に資する利用を検討しておりますが、一定した熱源を長時間必要とする熱供給事業がRDFに適していると考えております。

次に、RDFボイラーの現状と課題であります。ハイランドふらのRDFボイラーは、平成30年度と令和2年度に大規模な改修工事を行い、令和3年度より、燃焼調整や機械設備の動作確認等の調整運転を実施してきました。令和4年度からは、清掃日等を除き、日々の終日運転に移行し、運転プログラムや効果的な熱供給設備運用の検証を行っております。

なお、中小規模のRDFボイラーは全国でも実績のない取組でありますので、今後も新たな課題が生じる可能性もありますが、現状は検証中である運転プログラムの適正化や機械設備の耐用年数等について見極めてまいります。

次に、2点目の脱炭素社会のまちづくりについてであります。令和3年度に実施した再生可能エネルギーのポテンシャル調査の結果を踏まえ、今後の本市の再生可能エネルギー導入に当たっては、豊富な地域資源を全方位的に活用すること、本市観光の魅力である景観に配慮した導入を行うこと、地域特性である冬季の熱需要に対する活用を推進すること、導入推進の担い手を育成する

ことが重要であると考えております。

脱炭素ロードマップ策定に向けては、富良野市環境審議会での情報提供と議論、庁内関係部署による庁内策定委員会設置のほか、ゼロカーボンに関する職員研修会や市民セミナー開催など、関係機関との積極的な意見交換を行っているところであります。

次に、J-クレジット制度の取組推進についてであります。クレジットの売却益を得ることができることのほか、地球温暖化対策への取組に対するPR効果も期待できると考えておりますが、本市におけるCO<sub>2</sub>森林吸収分のポテンシャルも勘案しながら、今後の調査研究課題といたします。

次に、ZEH住宅やHEMSへの補助拡大についてであります。現在実施している住宅改修補助や再生可能エネルギー導入促進事業において、断熱や省エネ、再生可能エネルギー導入に関する補助を行っております。

なお、太陽光パネル設置や木質系ストーブ導入補助等については、燃料費や電気代の高騰等もあり、申込み希望者が増加していることから、次年度に向けて対象者の拡大を検討しているところであります。

次に、PPA方式による公共施設への太陽光発電施設設置についてであります。令和4年6月に供用開始となった富良野水処理センターのほか、現在、市内3施設にて調査を実施しており、有効性が認められた施設については、導入に向け検討してまいりたいと考えております。

次に、国の脱炭素先行地域エントリーへの検討についてであります。本年度策定する脱炭素ロードマップにおける2050年の目指す姿や取組方針の具現化に向け、さらに、市民のゼロカーボンシティへの意識醸成を図るため、モデル地区を設定し、調査研究、試行を行い、同地区で得られた知見を他地区へ広げていくステップを想定しております。その過程の中で、脱炭素先行地域へのエントリーも念頭に置きながら、計画に必要となる地域課題解決への取組や先進性、担い手の育成といった観点も踏まえ、モデル地区での協議を進めてまいります。

次に、脱炭素社会構築に向けた市民意識の醸成についてであります。令和2年度に実施した市民意識調査において、市で取り組むべきこととして、省エネ設備や再生エネ導入への支援のほか、小・中学校での教育施設や市民への周知強化への意見もありました。

ゼロカーボンシティ実現には、市民一人一人の意識醸成、行動変容が最も重要であり、継続的な意識啓発としての環境展などの開催のほか、CO<sub>2</sub>削減、省エネなどの行動例や削減効果が分かるプランを作成し、行動を促す取組が必要と考えております。

次に、3点目の環境を基軸とした産業、観光の好循環サイクルの構築についてであります。環境は、市民生

活と密接に関わり、さらに、農業をはじめとする産業の活動資源や本市観光の魅力である自然景観を守り、支える土台として、住んでよし、訪れてよしの観光地域づくりを行う上で、今後ますます重要になってくると考えております。

現在、本市では、地域ニーズに対応しつつ、将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する持続可能な観光地経営のモデル形成事業のモデル地域調査に採択されており、その中で、先進的かつ市民の誇りでもある資源リサイクルの取組を国内外の来訪者へどう伝えていくべきかなど、協議しているところであります。こうした協議と「北の国から」のコンセプトはリンクするものと捉えており、今後、どのような情報発信手法が有効かなど、ロケ地活用の在り方を含め、検討してまいります。

以上です。

○議長（黒岩岳雄君） 再質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

○12番（佐藤秀靖君） それでは、順次、再質問させていただきます。

まず、RDFの活用方法についてであります。いま、市長から御答弁いただいたところであります。1点目ですが、RDFの95%が市外で活用されているということに鑑みて、地域での利用を促進したいということでありました。

これについて、具体的にお話がなかったように感じています。どういう活用ができるのか、どういうところで、どんなふうに関心しているのか、もし現時点で御説明いただける部分がありましたらお願いしたいと思います。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市民生活部長山下俊明君。

○市民生活部長（山下俊明君） 佐藤議員の再質問にお答えいたします。

RDFの市内での活用方法で、いま、具体的なものがあるのかどうかということについての御質問かと思えます。

答弁でも述べさせていただいたとおり、第3次富良野市環境基本計画でも、地域循環共生圏の構築ということで、RDFにつきましても市内での利用を拡大していきたいということは従来から考えておりますし、その一方で、いま、ハイランドふらのと生涯学習センターでRDFボイラー稼働させております。

ただ、ハイランドふらののRDFボイラーにつきましても、先ほど答弁でも申し上げたとおり、令和2年度に最後の大幅な改善工事を行って、現在調整中でございます。そちらも、いま、順調に動かせるために調整だとか検証を行っているところであります。そこも踏まえて、市内での利用ということまでは、まだ具体的なものは

固まっていなくても、脱炭素ロードマップの策定に当たって、ゼロカーボンシティ実現の利用に資するようということでRDFも一緒に考えております。

RDFボイラーは、先ほどの答弁にもありましたように、熱源を長時間必要とする熱供給事業に向いているのではないかとということもありますので、他市の事例はまだ研究中でありますけれども、例えば木材の乾燥ですとか、そういったようなものにも使えるのではないかとということで、候補の一つとして、いま、検討ですとか事例の調査研究を行っているところであります。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

○12番（佐藤秀靖君） いまの市民生活部長からの御答弁で、RDFの活用として、RDFボイラーを活用して、長時間燃焼するというRDFボイラーの特徴を生かして木材の乾燥などに適しているのではないかとのお話でありました。これは検討中ということですが、私も、材を生産するに当たっては木材を乾燥させなければいけないので、この熱源としては非常に有効だと思っていますので、ぜひ研究を進めていただければと思います。

次に、RDFボイラーの完成についてなのですが、先ほど私が申し上げたとおり、令和4年度中の完成を目指すというふうには承知をしているところで、いろいろお話を伺ったら、現在調整運転中でありまして、ほぼ完成に近い状態だということに伺っています。

市民の皆さんは、RDFがいまどういう状況になっているかということをお聞きの方が非常に多いと感じています。恐らく、これは、私の感覚ですが、ごみのリサイクルに対する象徴的な事業だと思っているのです。自分たちが、日々、分別を行って、その中からできたRDFを燃やして、ハイランドふらのの熱源にしているということは、自分たちが日々やっている努力が実になっているということにつながるわけですから、こういう部分を市民にもっともっと積極的にアピールしていくということが、満足度の向上につながるのではないかと、思っていますが、RDFの現状、それから、こういうふうに使っています、それから、これからの脱炭素社会構築に向けてこういうふうな考えを持ってRDFを活用していきますというような、行政からの情報提供といいますか、考え方の提供というのが必要なのではないかというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

市民生活部長山下俊明君。

○市民生活部長（山下俊明君） 佐藤議員の再質問にお

答えいたします。

市民への周知の前にRDFボイラーの完成のことについての御質問があったのかと考えますが、先ほど答弁でも申し上げたとおり、日々の運転では、いま、終日運転に移行しておりますので、そちらについては稼働はしているということでもあります。また、この先、いま調整中のものの中には自動運転化というのがございますので、そちらに向けてプログラムの修正等を行っているところであります。

ただ、こちらなのですが、ハイランドふらのRDFボイラーの完成はいつなのかということになりますと、ただ、自動運転化が行われて重油の使用量の削減が図られたところが、機械そのものとしては完成ということと言えるのかもしれませんが、当然、いままでの経過の中で数々の知見を培ってこられた、あと、国内でも先進的なボイラーとして知見を積み重ねてきたというところは非常に大きな財産でありますので、総合的な熱供給事業という中で考えれば、これからまだまだ先、この培った知見を脱炭素ですとか、ゼロカーボンシティ実現に向けて活用していくということでは、まだまだ完成ではなくて、途上だと思っております。

また、市民への周知ですが、令和4年、以前、議会でも御意見いただきましたように、ごみの資源化について、ただ資源化ではなくて、資源化の先にどういう利用がされているのか周知したほうがいいのかという御意見もいただきましたので、令和4年8月の広報紙で、ごみのことについて見開きで記事を掲載させていただきました。

ただ、こちらは、ごみ分別による循環型社会の維持と脱炭素の推進ということで、内容的にはかなり要素が盛りだくさんの記事になったものですから、RDFボイラーにつきましても、いろいろとハイランドふらので活用していますという記載はあったのですが、こちらの記事も少し小さくなってしまったという部分もございますので、こちらについては、引き続き、これからの、脱炭素ロードマップの策定には市民意識の醸成が必要不可欠と考えておりますので、周知についても引き続き詳しく行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

○12番（佐藤秀靖君） それでは、次に参ります。

脱炭素ロードマップの策定に向けてという部分であります。

これは、先ほど御答弁いただいたとおり、令和5年度の策定に向けてということでありまして、関係機関等々との協議等々はあると思いますが、これもかなり複雑な内容になるかと思っておりますので、これは先ほどの御

答弁のとおりで了解したところです。

これと連動しまして、J-クレジットについてお問い合わせしますが、これは、先ほど、調査研究を進めるという御答弁でありました。

これは、仕組みが分かっていないとなかなか話している内容が分からないと思うのですけれども、クレジットとして提供すると富良野市の削減量がなくなるのですよ。なくなるというか、例えば、100、富良野市がCO<sub>2</sub>削減をして、50をクレジットとして出したとしたら、その50は富良野市のカウントにならないという部分もあります。これは調査研究をしっかりとさせていただく必要があるのかと思います。

また、J-クレジットに登録するのも相当な書類審査等々もあって困難な作業かなと思っているのですけれども、先ほど申し上げたとおり、J-クレジット制度に登録することによって富良野の取組をアピールできるというところが大きなポイントだと思っています。

イメージの向上と連動して、富良野市の取組をアピールするという意味では必要な事業かと思っていますが、そこら辺の認識をもう一度伺ってよろしいでしょうか。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

市民生活部長山下俊明君。

**○市民生活部長（山下俊明君）** 佐藤議員の再質問にお答えいたします。

J-クレジットの活用についてということであります。

こちらは、いま、森林活用の取組ということで先ほど答弁させていただいておりますが、当然、地球温暖化対策への取組に対するPR効果というのは非常に大きいものというふうに捉えております。

ただ一方で、このJ-クレジットの課題としましては、当然ですけれども、適切な森林管理が必要になっております。また、モニタリングも行って、吸収量をクレジットとして申請、認証するということになっておりますので、人の手を入れないで放置された森林や原生林は対象外となっている制度でございますので、きちんと森林整備を行ってクレジットとして売却することによってPR効果も期待できるというところでは、取り組むべき課題なのかというふうには認識をしているところでありますが、先ほど佐藤議員もおっしゃっていたように、富良野市での活用となりますと、令和3年のポテンシャル調査の結果におきましても、CO<sub>2</sub>の削減量最大100%のうち、約27%ぐらいが森林吸収分ということで見込んでおりますので、こちらがほかの太陽光、小水力ですとかバイオマスも含めた総体の中でCO<sub>2</sub>の削減量を考えていくときに、森林吸収分についても非常に大きな富良野市の削減の要素ということで捉えておりますので、いま、脱炭素ロードマップ策定の議論の中で、将来的にJ-クレジットの部分はどうするかということについては、今後の

調査研究課題とさせていただきたいということでございます。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

**○12番（佐藤秀靖君）** 次に参ります。

現在行っている太陽光発電、それから木質ペレット、まきストーブの補助のみならず、新しい取組についての補助拡大の考え方ということで先ほど伺いまして、太陽光については対象を拡大していくという御答弁だったと思います。

先ほど私がお話ししたZEB建築、ZEH住宅、HEMSというのは、これから導入される住宅が増えてくるのだろうというふうには思っています、これをいまずぐ補助の拡大というふうには私も思いません。これは、いまから研究していく必要があるのかというふうには思っています。

なぜこれを伺うかということなのですが、これは後の質問にも関連するのですが、脱炭素社会構築に向けては市民意識の醸成というのが物すごく大きなポイントになると思っています。そういった中で、J-クレジットというのは富良野市のスタンスを明確にできると思っていますし、また、ZEB建築、ZEH住宅、HEMS辺りに補助を出すということも、富良野市のスタンスに見える化するという部分では必要なかなと思っていますが、ここについて、先ほどは太陽光発電についての補助拡大ということでありましたが、その他の部分について、この3件にかかわらず、補助対象の拡大というところの考え方があれば伺いたいと思います。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

市民生活部長山下俊明君。

**○市民生活部長（山下俊明君）** 佐藤議員の再質問にお答えいたします。

先ほど市長答弁にもありました、再生可能エネルギー導入促進事業ですとか、住宅改修補助の中でというお話をさせていただいたのは、多分、いま、佐藤議員のほうは新築の部分のZEH住宅だとか、その辺のお話だったり考え方というふうに認識しております。

ただ、もともとのZEH住宅というのが、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウスですとか、要は、つくるエネルギーと使うエネルギーの収支バランスをゼロ以下にする住宅という意味でもございますので、そういった意味では、本来の目的としては住宅改修ですとか再生可能エネルギー導入促進で果たされるということもございまして、総体の中での答弁となったわけでございます。新築の部分に関しては、国のほうで国土交通省ですとか経済産業省で取り組んでいる補助もございまして、何分、住宅の補助としては本当にごくごく一部の支援という程

度になっているかと思えます。

こちらについても、PRということでは取り組むべきものと考えておりますが、富良野市で従来から行っております地球温暖化の再生可能エネルギーのほうにつきましても、一時期、若干、伸び悩みだったわけですが、いま、ほかの燃料の高騰もございますし、また、脱炭素ロードマップの策定に合わせて需要も伸びているということでございますので、こちらは、ゼロカーボンというよりカーボンニュートラルに近い考えでもありますが、太陽光発電ですとかペレット、まき、こちらのほうの補助事業の拡大を先に検討していきたいということで、御理解いただきたいと思えます。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

**○12番（佐藤秀靖君）** 続きまして、PPA方式による公共施設への太陽光発電施設の設置について伺います。

先ほど、3か所を調査しているというふうに御答弁いただきました。先ほど、私は1回目の質問でお話ししましたけれども、国は、自治体に公共施設に積極的に太陽光発電を設置するようというのを求めています。公共施設というのは、当然、庁舎のみならず、学校、病院、富良野市の場合は病院はありませんけれども、その他もろもろ、いろいろな公共施設があります。

その中で、例えば、屋根置きでパネルを置くといったときも、重量や耐震性等々も考えなければいけないと思うのですが、そういうところも含めて全施設を調査した中でこの3か所ということでよろしいでしょうか。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

市民生活部長山下俊明君。

**○市民生活部長（山下俊明君）** 佐藤議員の再質問にお答えいたします。

PPA方式による公共施設への太陽光発電施設設置についてということですが、令和4年6月に供用開始となった水処理センターほかということで、先ほども申し上げましたとおり、市内の3つの公共施設において調査を実施し、有効性が認められたということについては検討していきたいということでございます。

例えを申しますと、リサイクルセンターでも当然調査は行ったわけですが、リサイクルセンター等については、調査の結果、機械の設備が稼働しているときと稼働していないときで用量にかなりの違いがあるということで、こういったものについてはPPAでは採算ラインを取るのが困難ということで調査結果が出ておりますので、用量が一定であって季節や時間帯に影響されないということで3施設ということで検討しているということでございます。

以上でございます。

**○議長（黒岩岳雄君）** 続いて、質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

**○12番（佐藤秀靖君）** それでは、脱炭素社会構築に向けた市民意識の醸成というところのお話をさせていただきたいと思えます。

午前中の渋谷議員の一般質問でも、シビックプライドと関連してこの部分のお話があったのかなというふうに思っています。実際問題、リサイクルに対する市民の意識は高く、満足度も高いという素地があると私は申し上げましたけれども、これを、脱炭素社会構築に向けてということだと、一つギアを上げなければいけないということになってきようかと思えます。ですから、リサイクルと同じように、富良野市が脱炭素社会に積極的に参画していくのだ、そのためには私たち市民も協力を惜しまないというようなところ、そして、それが実現したときにはシビックプライドが醸成されるというところで、ここまで市民の意識の変容を促していかなければいけないというところできくと、私は、市民に対してお願いするという部分できくと、これこれ、こういうふうにするからこうなりますという見える化、行政がこれから取るべき手段、方法、事業等々が見える化していく必要がある、それを市民にどう伝えていくかというところが非常に大きなポイントになるのではないかとこのように思っています。

脱炭素社会構築に向けた市民の努力をどのようにシビックプライドに昇華させるか、そのための見える化と伝える化というところをしっかりと考えていかなければいけないと思えますが、再度、御答弁をお願いします。

**○議長（黒岩岳雄君）** 御答弁願います。

市民生活部長山下俊明君。

**○市民生活部長（山下俊明君）** 佐藤議員の再質問にお答えいたします。

これから、市民意識の醸成について、見える化等についてどのように考えていくのかということでございますが、こちらの課題が、いま策定中の脱炭素ロードマップにおいても、まずは取組推進の中で七つの視点が必要だということで掲載させていただいております。その七つの視点のうちの1点目が、まさに市民の脱炭素スタイルへの意識醸成、リサイクル都市からゼロカーボンシティへということで掲げて取り組んでいきたいということで、いま挙げているところです。

また、それについて、ふらの市民環境会議ですとか、地域懇談会ですとか、様々なところで市民の皆様の意見を聞きながら醸成に向けて取り組んでいきたいというふうに考えておりますが、伝える化、見える化についても、いままでの取組も引き続き継続していくとともに、また新しいことを考えたり、市民への見える化だけではなくて、市民の方にも行動変容を促していただくというのが

非常に重要になっております。行動変容をする中で、意識の醸成というのもまたさらに1段階高いところに上がっていきけるものと考えておりますので、いまのところはまだ案の段階ではありますが、市民の行動、アクションプランの作成等を考えながら取り組んでいきたいと考えておりますし、また、この点についていろいろな場面で議論をしながら、脱炭素ロードマップで市民が何をすべきか、何をさせていただくべきかというのをこれから協議していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

12番佐藤秀靖君。

○12番（佐藤秀靖君） それでは、最後に、環境を基軸とした産業、観光の好循環サイクルの構築について伺います。

私の今回の質問は、脱炭素社会構築に向けた市民の意識醸成というところに注力をして、質問しているつもりなのですが、先ほど申し上げたとおり、市民に対する見える化、伝える化ということをどうやって実現していくかというのは、いろいろ検証、検討していかなければいけない部分だと思っております。

その中で、私が先ほど御提案申し上げました、「北の国から」のロケセットやロケ地を環境問題について考える施設だとかテーマパーク的にすることによって市民の皆さんにも考えていただく、それから、観光客の皆さんにも来ていただいて富良野市の取組を理解していただくと、これは見える化の一環だと思っております。

これについては、先ほどの市長の御答弁で、関連性があるので検討したいということでありましたが、実際に、1回目の質問で申し上げたとおり、「北の国から」放映40周年が終わって、これから未来に向けて富良野のスタンスとしてどう考えていくのか、このドラマのコンセプト、自然との共生という部分をどう見せていくのかというところが大きなポイントになろうかと思いますが、これについて、私の提案が全てではありませんけれども、当然、関係者の皆さんとの協議も必要だと思いますが、こういった部分の見える化、伝える化、見せる化という部分の観点から、「北の国から」の放映と併せて取り組んだらどうかと思いますが、再度、御答弁をお願いします。

○議長（黒岩岳雄君） 御答弁願います。

経済部長川上勝義君。

○経済部長（川上勝義君） 佐藤議員の再質問にお答えいたします。

「北の国から」のセットを含めてどうやって見せていくかという御質問だと思います。

令和4年10月まで、「北の国から」40周年の記念事業をやってまいりました。その中で、このロケセット等を

多くの皆さんに見ていただいたこともありますし、また、地域から、10月8日に収穫祭的なものを開いていただいて、この施設のところで事業をやっていただいたということがあります。

拾ってきた家につきましては、捨てられていたもので組み立てた建物ということで、大量消費社会に対して警鐘を鳴らすというメッセージが込められています。この施設については、富良野市の環境への取組とマッチするものというふうに考えておりますけれども、これからどういうふうに発信をしていくか、例えば、ドラマのイメージ、雰囲気は損なわないといえますか、そういう配慮も必要ですし、様々なことを考えていかななくてはならないと考えています。

また、富良野市の市民の取組も先ほどからお話が出ています。ごみのリサイクルの関係、また、民間では旅行者に木を植えていただくような取組もあります。また、施設も、拾ってきた家だけでなく、富良野市リサイクルセンター等、そういう施設もありますし、富良野市内には環境に取り組むものがたくさん埋まっているというふうに思っています。

まずは、先ほど、持続可能な観光づくりの中でどういうふうな発信ができるか、いろいろと検討をしてくという答弁をさせていただきましたが、富良野市内にある環境への取組、こういうものも結びつけて面で捉えて発信していく、そして、発信していくことによってそれが市民の誇りにもつながっていくのではないかと思いますので、これからどのようなことができるか、検討していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（黒岩岳雄君） 続いて、質問ございますか。

（「了解」と呼ぶ者あり）

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、佐藤秀靖君の質問は終了いたしました。

---

## 散 会 宣 告

---

○議長（黒岩岳雄君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

明8日の議事日程は、お手元に御配付のとおり、大栗民江君の一般質問を行います。

本日は、これをもって散会いたします。

午後2時23分 散会

上記会議の記録に相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 4 年 12 月 7 日

議 長 黒 岩 岳 雄

署名議員 渋谷 正文

署名議員 天 日 公 子